看護教育課程概要

丹波市立看護専門学校

第１０回生

目　　次

1. 教育理念・教育目的・教育目標 …… 1

2. ポリシー （方針） …… 2～4

3. 教育課程の構成 …… （A3用紙）

4. カリキュラム構造図 …… 5

5. 教育計画表・教育進度表 …… 6～9

6. 教科外教育計画 …… 10・11

7. 学年の到達目標 …… 12

8. 基礎分野の教育内容 …… 13～25

9. 専門基礎分野の教育内容 …… 27～46

10. 専門分野の教育内容

1) 基礎看護学 …… 47～66

2) 地域・在宅看護論 …… 67～73

3) 成人看護学 …… 74～81

4) 老年看護学 …… 82～87

5) 小児看護学 …… 88～92

6) 母性看護学 …… 93～97

7) 精神看護学 …… 98～102

8) 看護の統合と実践 …… 103～108

12. 臨地実習

1) 実習目的・目標 …… 109

2) 臨地実習構成表 …… 110・111

13. 看護技術一覧表 …… 113～120

14. 看護師教育の技術項目と卒業時の到達度 …… 121～123

教育理念

本校は、丹波市のスローガンである『丹（まごころ）の里』を基盤に自己の感性を磨き、思いやりの〝こころ〟をはぐくみます。自らが描く未来の姿を実現し、変化する社会に対応できる人材、生涯にわたり看護を創造し,追究できる専門職業人を育成します。

また、地域に関心・愛着をもち、地域住民の健康的な暮らしを支援し、保健医療福祉の分野で活躍できる看護実践者を育成します。

学校・学生・地域が一体となり、地域に密着した開かれた学校として貢献します。

教育目的

看護の専門職業人として必要な知識・技術・態度を修得し、自己啓発できる能力をもった地域貢献できる看護実践者を育てる。

教育目標

１．生命の尊厳と人権を尊重する人間性・倫理性を身につける。
２．看護の対象である人間を生活者としてとらえ、全人的に理解する能力を身につける。
３．健康上の課題解決に向けて、状況を分析・判断し科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につける。
４．保健・医療・福祉チームの中での看護の役割を認識し、多職種と連携・協働できる能力を身につける。
５．地域に関心を持ち、地域で暮らす人の健康を護る能力を身につける。
６．専門職業人としてのキャリアを描き、看護を追究し続ける能力を身につける。
７．社会の変化と医療の動向に関心を持ち、未来の看護を担う能力を身につける。

ポリシー（方針）

1 アドミッションポリシー

（1） 人間の尊厳を護り、保健医療福祉分野に貢献しようとする意欲がある人

（2） 豊かな感性を持ち、柔軟に物事を考えられる人

（3） 他者に関心を持ち、自分の考えを表現できる人

（4） 目的に向かって自ら学び、責任ある行動がとれる人

（5） 地域に根付き、地域医療に貢献する意欲がある人

2 カリキュラムポリシー

（1） アドミッションポリシーを基盤として、ディプロマポリシーに沿った能力を持つ学生の育成を目指したカリキュラム編成とする。

（2） 基準カリキュラムに基づいて、基礎分野、専門基礎分野、専門分野の3つから編成する。

（3） カリキュラムデザインは漸進的デザインを選択し、1 年次からの学習内容を積み上げながら知識の定着を図る。

（4） 基礎分野は、看護学の基礎となる科目として、また、豊かな人間性を養う教養科目として設定する。この分野は、自己の人間形成を図るとともに、倫理性・科学的思考の育成と人間を幅広く捉えることができる科目を設定し、専門基礎分野、専門分野の土台とする。

（5） 専門基礎分野は、専門分野である看護学に関連し、看護学の基礎となる支持科目で構成する。これらの科目が、基礎看護学、各看護学の臨床看護に応用展開できるように系統的および関連性のある内容を抽出する。

（6） 専門分野は、すべての看護実践の基礎となる基礎看護学で、看護技術や看護理論の内容を包含する看護学の基盤を学び、成長発達段階の看護に発展するように関連させる。

（7） ライフサイクルにおける成長発達を切り口として領域別看護学を位置づけ、人間の成長発達と健康段階を軸に教育内容を抽出し、あらゆる健康段階や場にある人への看護活動ができる能力を育成する。

（8） 卒業後に臨床現場にスムーズに適応できることを目的とし、看護の場の変化に対応し、組織の中での自己の役割を果たせるように教育内容を抽出する。

（9） 看護実践能力に必要な能力を、「人間理解」を主軸に「関係形成能力」「状況判断能力」「根拠に基づいた看護展開能力」「健康状態に応じた看護実践能力」「看護者としての役割と責任」「自己学習力」「安全と倫理」の8つと捉えて、カリキュラム全体の中に取り入れながら、卒業時に身についている能力として配置する。

（10） 科目の配列・順序性は、それぞれの教育内容の持つ理論体系に基づいて、系統性や関連性を考えて組織化する。

（11） 教育内容の種類や性質に応じて、総論から各論、単純なものから複雑なもの、抽象から具象へなどを考慮した配列とする。

（12） 知識を統合して学習したことが有効活用できるように、理論と体験を往還し、思考が繋がる教授方法で知識の定着を図る。

（13） 筆記試験、課題レポート、演習点など、多様な評価方法を取り入れ、科目目標の到達度を評価する。

3 ディプロマポリシー

教育理念・教育目的のもとに、看護の対象を生活者としてとらえ、看護の視点で対象を総合的に理解した上で個を尊重した関わりができる。また、地域の健康課題に関心を持ち、将来、地域に貢献・定着できる看護師の育成を目指し、以下の基準を満たした学生に専門士を授与する。

（1） 人間の尊厳を護り、専門職業人としての倫理観に基づいた行動が取れる人

（2） 人間を生活者としてとらえ、全人的に理解できる人

（3） 対象の成長発達・健康状態に応じた看護を科学的に分析・判断し、看護を計画的に展開できる人

（4） 保健・医療・福祉チームの一員としての看護の役割を認識し、連携・協働できる人

（5） 地域に愛着をもち、地域で暮らす住民の健康を支えるとともに、ニーズに貢献する意欲がある人

（6） 自己のキャリア形成に向けて、自己教育力を身につけ、目標に向かって看護を追究・深化する努力ができる人

（7） 社会動向に関心を持ち、最新の情報をキャッチし、看護の発展に向けてチャレンジできる人

4 アセスメントポリシー

本校は、医療専門職業人として備えるべき資質を定めたディプロマポリシーに沿って、カリキュラムを構成する。学校の教育理念に基づき、学年ごと、科目ごとに、以下の指針に則って多面的に評価をする。

（1） 講義・演習科目では、知識とその応用を査定する。
実習科目では、実習内容の到達、看護技術、態度、コミュニケーション能力を査定する。

（2） 知識とその応用は筆記試験、総合的な能力は実習評価で査定する。

（3） 筆記試験・実習評価は、数値化して達成度を査定する。

（4） 評価基準の設定は、妥当性と客観性を考慮し、定期的に見直しを行い、次年度開始時に評価を受ける学生にシラバスで提示する。

（5） 年度ごとに進級判定・卒業判定という総括評価を行う。

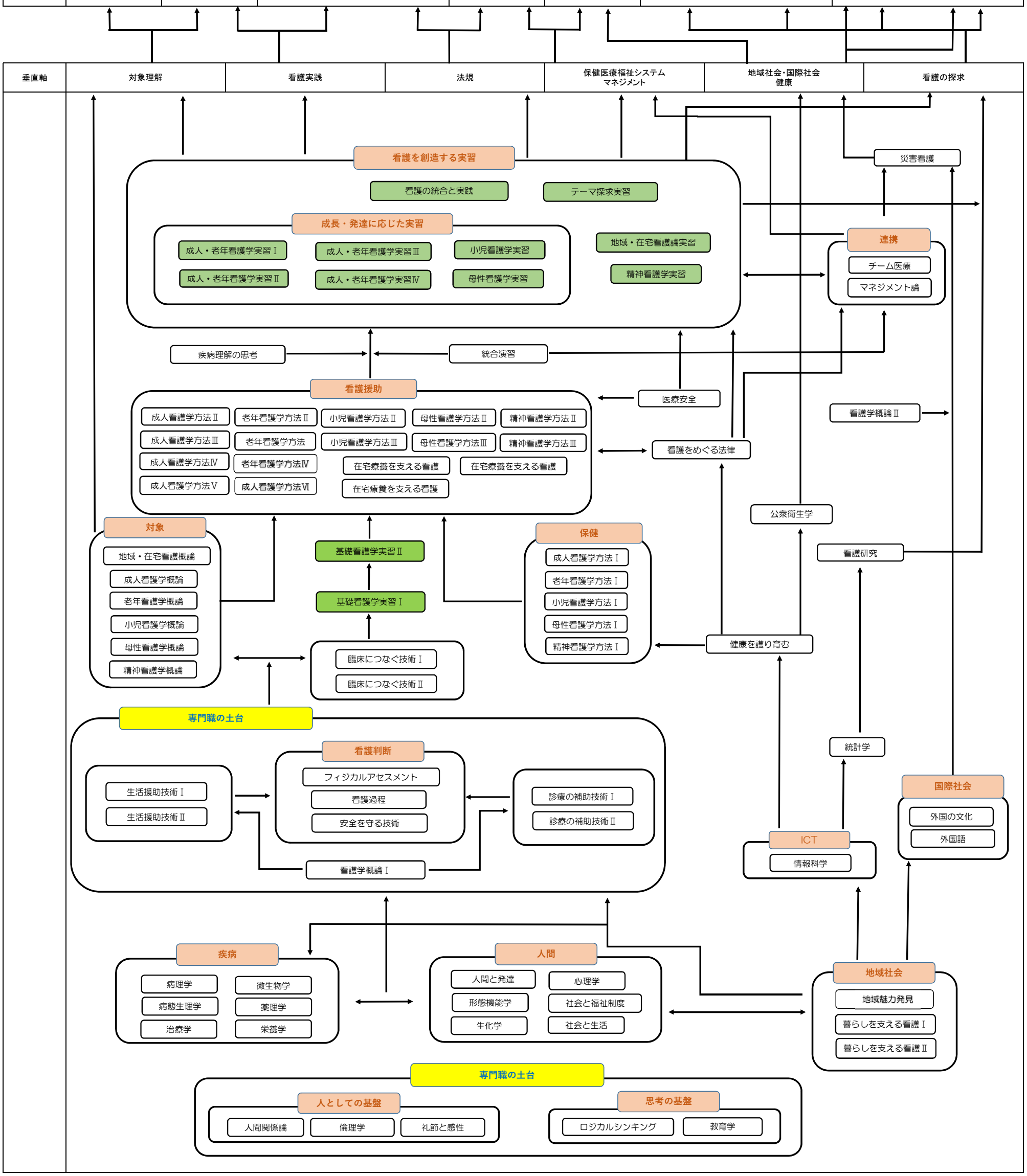
(6) 科目合否判定や総括評価に加え、随時、形成評価を行い到達目標に至る道程を明らかにする。

(7) 科目履修は、設定された時間の 3 分の 2 以上の出席がなければ評価対象から外す。

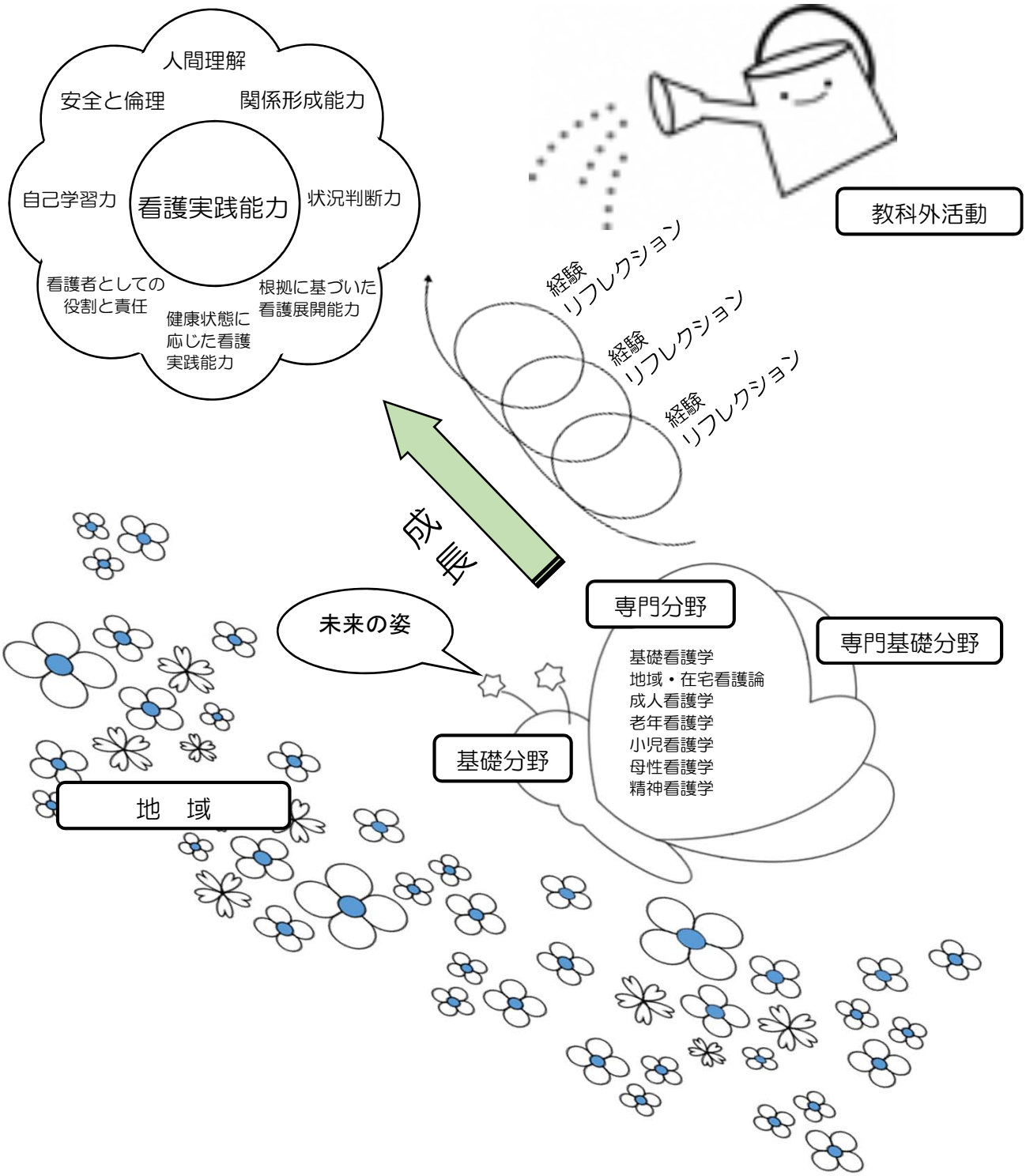
	入学時考査	単位認定・進級判定	卒業時判定・卒業後
	アドミッションポリシーを満たす人材かどうかの判定	カリキュラムポリシーに沿って学修が進められているかどうかの評価	ディプロマポリシーを満たす人材になったかどうかの評価
機関レベル	入学時試験 1. 地域枠入学試験 ・国語総合 （古文・漢文を除く） ・面接 ・調査書の内容 2. 一般入学試験 ・国語総合 （古文・漢文を除く） ・数学Ⅰ、数学A ・コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ 英語表現Ⅰ・Ⅱ ・面接 ・調査書の内容	休学率 退学率 留年率 自己点検・自己評価	進路の決定状況 ・進学率、進学先 ・就職率、就職先 卒業生調査 ・就職先病院へのインタビュー ・卒業後のアンケート ・実習指導者の到達度評価
教育課程レベル		年次終了時の目標到達度評価 単位取得状況 カリキュラム評価 成績分布状況 模擬試験結果 社会人基礎力の評価	単位取得状況 国家試験合格率 教育目標の到達度アンケート 看護観の発表 講師評価 社会人基礎力の評価
科目レベル		終講試験の結果 各種レポート評価 成果発表 授業評価 実習内容の到達度評価 OSCE	

教育課程の構成

教育の基本的考え方	1. 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解する能力を養う。 2. 対象を中心とした看護を提供するために、看護師としての人間関係を形成するコミュニケーション能力を養う。 3. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場に立った倫理に基づく看護を実践する基礎的能力を養う。 4. 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断を行うための基礎的能力を養う。 5. 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康の状態やその変化に応じて実践する基礎的能力を養う。 6. 保健・医療・福祉システムにおける自らの役割及び他職種の役割を理解し、多職種と連携・協働しながら多様な場で生活する人々への看護を提供する基礎的能力を養う。 7. 専門職業人として、最新知識・技術を自ら学び続け、看護の質の向上を図る基礎的能力を養う。						
看護実践能力	Ⅰ　ヒューマンケアの基本的な能力		Ⅱ　根拠に基づき、看護を計画的に実践する能力	Ⅲ　健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復に関わる実践能力	Ⅳ　ケア環境とチーム体制を理解し活用する能力		Ⅴ　専門職者として研鑽し続ける基本能力	
教育目標	1. 生命の尊厳と人権を尊重する人間性・倫理性を身につける。	2. 看護の対象である人間を生活者としてとらえ、全人的に理解する能力を身につける。	3. 健康上の課題解決に向けて、状況を分析・判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につける。		4. 保健・医療・福祉チームの中での看護の役割を認識し、多職種と連携・協働できる能力を身につける。	5. 地域に関心を持ち、地域で暮らす人の健康を護る能力を身につける。	6. 専門職業人としてのキャリアを描き、看護を追究し続ける能力を身につける。	7. 社会の変化と医療の動向に関心を持ち、未来の看護を担う能力を身につける。
DP	1. 人間の尊厳を尊重し、倫理に基づいた行動を取れる人	2. 人間を生活者としてとらえ、全人的に理解する力	3. 対象の成長発達・健康状態に応じた看護を科学的に分析・判断し、看護を計画的に展開できる人		4. 保健・医療・福祉チームの一員としての看護の役割を認識し、連携・協働できる人	5. 地域に愛着をもち、地域で暮らす住民の健康を支えるとともに、ニーズに貢献する意欲がある人	6. 自己のキャリア形成に向けて、自己教育力を身につけ、目標に向かって看護を追究・深化する努力ができる人	7. 社会動向に関心を持ち、最新の情報をキャッチし、看護の発展に向けてチャレンジできる人



AP	1　人間の尊厳を護り、保健医療福祉分野に貢献しようとする意欲がある人 2　豊かな感性を持ち、柔軟に物事を考えられる人 3　他者に関心を持ち、自分の考えを表現できる人 4　目的に向かって自ら学び、責任ある行動がとれる人 5　地域に根付き、地域医療に貢献する意欲がある人


人間理解
安全と倫理
関係形成能力
自己学習力
看護実践能力
状況判断力
看護者としての
役割と責任
健康状態に
応じた看護
実践能力
根拠に基づいた
看護展開能力
教科外活動
経験
リフレクション
経験
リフレクション
経験
リフレクション
成長
未来の姿
専門分野
専門基礎分野
基礎看護学
地域・在宅看護論
成人看護学
老年看護学
小児看護学
母性看護学
精神看護学
基礎分野
地　域

カリキュラム構造図

教 育 計 画 表

分野	教育内容	科目	内容	単位	時間	1年生		2年生		3年生	
基礎分野	科学的思考の基盤	ロジカルシンキング		1	30	1	30				
		情報科学		1	30	1	30				
		統計学		1	30			1	30		
	人間と生活・社会の理解	人間と発達		2	30	2	30				
		心理学		1	30	1	30				
		社会と生活		1	30	1	30				
		教育学		1	30	1	30				
		人間関係論		1	30	1	30				
		倫理学		1	15	1	15				
		礼節と感性		1	15	1	15				
		地域魅力発見		1	15	1	15				
		外国の文化		1	15			1	15		
		外国語		1	30			1	30		
	小　計			14	330	11	255	3	75	0	0
専門基礎分野	人体の構造と機能	形態機能学Ⅰ	細胞・組織	1	30	1	30				
		形態機能学Ⅱ	呼吸器系、循環器系	1	30	1	30				
		形態機能学Ⅲ	消化器系、腎・泌尿器系 生殖器系、内分泌系	1	30	1	30				
		形態機能学Ⅳ	脳神経系、骨関節系、皮膚科 眼科、耳鼻科	1	30	1	30				
		生化学		1	30	1	30				
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学		1	15	1	15				
		治療学	手術療法、麻酔、放射線療法 内視鏡療法、物理療法	1	30	1	30				
		病態生理学Ⅰ	呼吸器系、循環器系 血液・造血器系、消化器系	1	30	1	30				
		病態生理学Ⅱ	内分泌・代謝系、脳・神経系 腎臓系、泌尿器系、骨・関節系	1	30	1	30				
		病態生理学Ⅲ	小児特有の疾患、 母性・女性生殖器系、精神	1	30			1	30		
		病態生理学Ⅳ	難病、眼科、皮膚科、歯・口腔	1	15			1	15		
		微生物学		1	30	1	30				
		薬理学		1	30	1	30				
		栄養学		1	15	1	15				
		フィジカルアセスメント		1	30	1	30				
		疾病理解の思考		1	15					1	15
	健康支援と社会保障制度	健康を護り育む	丹波市の保健衛生	1	15	1	15				
		公衆衛生学		1	15			1	15		
		看護をめぐる法律		2	30			2	30		
		社会と福祉制度		2	30			2	30		
	小　計			22	510	14	375	7	120	1	15
専門分野	基礎看護学	看護学概論Ⅰ		1	30	1	30				
		看護学概論Ⅱ	看護理論、国際看護	1	15			1	15		
		安全を守る技術	感染予防、創傷処置、ゼミナール	1	30	1	30				
		生活援助技術Ⅰ	活動・休息、体位・移動、環境	1	30	1	30				
		生活援助技術Ⅱ	食事・排泄、衣生活・清潔	1	30	1	30				
		診療の補助技術Ⅰ	浣腸・導尿、吸引・吸入・洗浄	1	30	1	30				
		診療の補助技術Ⅱ	検査、与薬	1	30	1	30				
		臨床につなぐ技術Ⅰ	周手術期、ME機器	1	30	1	30				
		臨床につなぐ技術Ⅱ	安静・食事療法、輸液・輸血療法 救急法	1	15	1	15				
		看護過程		1	30	1	30				
		看護研究		1	30			1	30		

専門分野	地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論	対象理解	1	15	1	15					
		暮らしを支える看護Ⅰ	地域の特徴と生活	1	15	1	15					
		暮らしを支える看護Ⅱ	地域での看護活動	1	15	1	15					
		在宅療養を支える看護Ⅰ	地域包括ケアシステムと連携	1	30			1	30			
		在宅療養を支える看護Ⅱ	在宅援助技術	1	30			1	30			
		在宅療養を支える看護Ⅲ	看護過程	1	15					1	15	
	成人看護学	成人看護学概論	対象理解	1	15	1	15					
		成人看護学方法Ⅰ	保健と健康課題	1	30	1	30					
		成人看護学方法Ⅱ	クリティカルケア	1	15			1	15			
		成人看護学方法Ⅲ	周術期ケア	1	30			1	30			
		成人看護学方法Ⅳ	セルフケア	1	30	1	30					
		成人看護学方法Ⅴ	セルフマネジメント	1	30			1	30			
		成人看護学方法Ⅵ	ターミナルケア	1	30			1	30			
	老年看護学	老年看護学概論	対象理解	1	30	1	30					
		老年看護学方法Ⅰ	保健と健康課題	1	15			1	15			
		老年看護学方法Ⅱ	生活援助	1	15			1	15			
		老年看護学方法Ⅲ	症状別看護	1	30			1	30			
		老年看護学方法Ⅳ	看護過程	1	30			1	30			
	小児看護学	小児看護学概論	対象理解	1	15			1	15			
		小児看護学方法Ⅰ	保健と健康課題	1	30			1	30			
		小児看護学方法Ⅱ	状態別看護	1	30			1	30			
		小児看護学方法Ⅲ	状態別看護	1	30			1	30			
	母性看護学	母性看護学概論	対象理解	1	15	1	15					
		母性看護学方法Ⅰ	保健と健康課題	1	30			1	30			
		母性看護学方法Ⅱ	妊娠期、分娩期	1	30			1	30			
		母性看護学方法Ⅲ	産褥期、新生児期	1	30			1	30			
	精神看護学	精神看護学概論	対象理解	1	30	1	30					
		精神看護学方法Ⅰ	精神保健	1	15			1	15			
		精神看護学方法Ⅱ	症状別看護	1	30			1	30			
		精神看護学方法Ⅲ	地域での精神保健、看護過程	1	30			1	30			
	看護の統合と実践	チーム医療	多職種連携	1	15			1	15			
		医療安全	ゼミナールⅠ・Ⅱ	1	30			1	30			
		マネジメント論		1	15					1	15	
		災害看護		1	30					1	30	
		統合演習		1	30					1	30	
	小　計			46	1155	18	450	24	615	4	90	
	臨地実習	基礎看護学	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	1	45					
			基礎看護学実習Ⅱ	2	90			2	90			
		地域・在宅看護論	地域・在宅看護論実習	2	90					2	90	
		成人・老年看護学	成人・老年看護学実習Ⅰ	2	90			2	90			
			成人・老年看護学実習Ⅱ	2	90					2	90	
			成人・老年看護学実習Ⅲ	2	90			2	90			
			成人・老年看護学実習Ⅳ	2	90					2	90	
			成人・老年看護学実習Ⅴ	2	90					2	90	
		小児看護学	小児看護学実習	2	90					2	90	
		母性看護学	母性看護学実習	2	90					2	90	
		精神看護学	精神看護学実習	2	90					2	90	
		看護の実践と統合	統合実習	2	90					2	90	
	小　計			23	1035	1	45	6	270	16	720	
総　計				105	3030	44	1125	40	1080	21	825	

教 育 進 度 表

分野	科目		単位	学年月	1年生												2年生												3年生											
					4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3		4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3		4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	
				時間	前 期				後 期								前 期				後 期								前 期				後 期							
基礎分野	科学的思考の基盤	ロジカルシンキング	1	30	←→																																			
		情報科学	1	30	←→																																			
		統計学	1	30													←→																							
	人間と生活・社会の理解	人間と発達	2	30	←→																																			
		心理学	1	30	←→																																			
		社会と生活	1	30					←→																															
		教育学	1	30	←→																																			
		人間関係論	1	30	←→																																			
		倫理学	1	15					←→																															
		礼節と感性	1	15	←→																																			
		地域魅力発見	1	15	←→																																			
		外国の文化	1	15																	←→																			
		外国語	1	30																		←→																		
	小 計		14	330																																				
専門基礎分野	人体の構造と機能	形態機能学Ⅰ	1	30		←→																																		
		形態機能学Ⅱ	1	30	←→																																			
		形態機能学Ⅲ	1	30	←→																																			
		形態機能学Ⅳ	1	30		←→																																		
		生化学	1	30	←→																																			
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	1	15		←→																																		
		治療学	1	30					←→																															
		病態生理学Ⅰ	1	30					←→																															
		病態生理学Ⅱ	1	30						←→																															
		病態生理学Ⅲ	1	30													←→																							
		病態生理学Ⅳ	1	15													←→																							
		微生物学	1	30	←→																																			
		薬理学	1	30					←→																															
		栄養学	1	15					←→																															
		フィジカルアセスメント	1	30					←→																															
		疾病理解の思考	1	15																									←→											
	健康支援と社会保障制度	健康を護り育む	1	15						←→																														
		公衆衛生学	1	15																	←→																			
		看護をめぐる法律	2	30													←→																							
		社会と福祉制度	2	30													←→																							
	小 計		22	510																																				
専門分野	基礎看護学	看護学概論Ⅰ	1	30	←→																																			
		看護学概論Ⅱ	1	15																	←→																			
		安全を守る技術	1	30	←→																																			
		生活援助技術Ⅰ	1	30	←→																																			
		生活援助技術Ⅱ	1	30		←→																																		
		診療の補助技術Ⅰ	1	30					←→																															
		診療の補助技術Ⅱ	1	30						←→																															
		臨床につなぐ技術Ⅰ	1	30							←→																														
		臨床につなぐ技術Ⅱ	1	15								←→																													
		看護過程	1	30					←→																															
		看護研究	1	30													←→																							
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論	1	15					←→																															
		暮らしを支える看護Ⅰ	1	15						←→																															
		暮らしを支える看護Ⅱ	1	15							←→																														
		在宅療養を支える看護Ⅰ	1	30													←→																							
		在宅療養を支える看護Ⅱ	1	30																	←→																			
		在宅療養を支える看護Ⅲ	1	15																									←→											

専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論	1	15		←→				
		成人看護学方法Ⅰ	1	30		←→				
		成人看護学方法Ⅱ	1	15			←→			
		成人看護学方法Ⅲ	1	30				←→		
		成人看護学方法Ⅳ	1	30		←→				
		成人看護学方法Ⅴ	1	30			←→			
		成人看護学方法Ⅵ	1	30				←→		
	老年看護学	老年看護学概論	1	30		←→				
		老年看護学方法Ⅰ	1	15			←→			
		老年看護学方法Ⅱ	1	15			←→			
		老年看護学方法Ⅲ	1	30			←→			
		老年看護学方法Ⅳ	1	30				←→		
	小児看護学	小児看護学概論	1	15			←→			
		小児看護学方法Ⅰ	1	30			←→			
		小児看護学方法Ⅱ	1	30			←→			
		小児看護学方法Ⅲ	1	30				←→		
	母性看護学	母性看護学概論	1	15		←→				
		母性看護学方法Ⅰ	1	30			←→			
		母性看護学方法Ⅱ	1	30			←→			
		母性看護学方法Ⅲ	1	30				←→		
	精神看護学	精神看護学概論	1	30		←→				
		精神看護学方法Ⅰ	1	15			←→			
		精神看護学方法Ⅱ	1	30			←→			
		精神看護学方法Ⅲ	1	30				←→		
	看護の統合と実践	チーム医療	1	15				←→		
		医療安全	1	30				←→		
		マネジメント論	1	15					←→	
		災害看護	1	30					←→	
		統合演習	1	30					←→	
	小　計		46	1155						
	臨地実習	基礎 基礎看護学実習Ⅰ	1	45		←→				
		基礎 基礎看護学実習Ⅱ	2	90				←→		
		地域 地域・在宅看護論実習	2	90					←→	
		成人・老年 成人・老年看護学実習Ⅰ	2	90				←→		
		成人・老年 成人・老年看護学実習Ⅱ	2	90				←→	←→	
		成人・老年 成人・老年看護学実習Ⅲ	2	90				←→	←→	
		成人・老年 成人・老年看護学実習Ⅳ	2	90				←→	←→	
		成人・老年 成人・老年看護学実習Ⅴ	2	90						←→
		小児看護学実習	2	90					←→	
		母性看護学実習	2	90				←→	←→	
		精神看護学実習	2	90				←→	←→	
		統合実習	2	90						←→
	小　計		23	1035						
総　計			105	3030						

教科外教育計画

教科外活動を通して、看護師に求められる豊かな人間性や感性、幅広い教養を身につけ、自己の成長を促すことが出来る。また学生間の交流を深め、集団生活を通して主体性・協調性を養うと共に社会人としての自覚を持ち、視野を広げる。

学校行事					
項目	行事月	時間数			ねらい
		１年生	２年生	３年生	
入学式	４月	4	4	4	本学校において、３年間の看護教育を受けようとする人に、入学の許可並びにその決意を自他共に養う。
卒業式	３月	4	4	4	本学校における教育が全て終了したことを認める。
入学時ガイダンス	４月	16			入学生に対して、学校生活をおくる為に必要な規則、諸手続きや教育内容等について情報を提供する。また、早期に学校生活に適応し、主体的・意欲的に学校生活がおくれるようにする。
宿泊研修	４月				集団活動の体験を通して規律性・協調性を養い、学生相互の交流を深める。集団の中で自己の役割を認識し、クラス作りの基盤とする。
芸術鑑賞	４月	6	6	6	芸術作品に触れることで自己の感性を磨き、看護師に求められる人間性を育む一助とする。
看護の日 看護ゼミナール	５月		4		看護の日にちなみ、看護の原点に返ることで看護学生として学ぶ姿勢を自覚し、看護への志を新たにし学習活動を送れるようにする。
健康診断	４月	2	2	2	学生の健康管理の一貫として行い、疾病の予防、異常の早期発見および各学生が自己の健康管理ができるようにする。
防災訓練	９月	2	2	2	災害時の対処方法を経験し安全に対する知識と適切な行動を身につける。
地域交流	通年	6	6		地域でのボランティア活動を通して、地域貢献をするとともに、地域住民と交流を図る機会とする。
卒業記念講演	３月	2	2	2	卒業を控えた３年生に、社会人として、専門職業人として出発する記念として講演を聞き、より良い生き方の指標とする。
ホームルーム	通年	24	24	24	学校生活を有意義に過ごすために、クラス内の問題解決や行事への取り組みをとおして、主体性と協調性を養う。
合計		66	54	44	３学年合計時間数　１６４時間

教科関連内容					
項目	実施月	時間数			ねらい
		１年生	２年生	３年生	
音楽	４～７月 ２～３月	15	2	3	校歌が歌えるようになることで、本学校の学生としての自覚が持てる。すばらしい音楽に触れることで、豊かな心を養う。
実習オリエンテーション	通年	6	28	12	実習に向けて各自の意識を高め、実習が効果的・主体的に実施できるようにする。
関西看護学生研究大会	10月		6		看護学生の研究的態度の伸長を目指すと共に、相互研鑽や交流の機会を図り、看護職への期待を高める。
医療安全ゼミナール	５月			6	人間の尊厳と生命の安全を守る看護者としての責任を考える機会とする。
実習前看護技術演習	１～３月	4	4		シミュレーション学習を行い、知識・技術を統合しながら看護実践につなげる能力を高める。
卒業前看護技術演習	３月			6	卒業前に、実践現場での看護援助を想定して、知識・技術の統合、状況判断をしながら看護実践できる能力を高める。
看護観の聴講	12月	4	4	16	自己の看護観を明確にし表現すると共に、他者の考えを聞き、看護を探求する姿勢を高める。
合計		29	44	43	３学年合計時間数　１１６時間

教科外活動　総合計時間数　　２８０時間

学年の到達目標

項目	１年生	２年生	３年生
月	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3
行事	入学式 宿泊研修 芸術鑑賞 健康診断 防災訓練 看護観聴講 春期休暇 卒業記念講演	芸術鑑賞 看護観ゼミナール 健康診断 関西学生研究大会 いのちの勉強会 防災訓練 看護観聴講 春期休暇 卒業記念講演	芸術鑑賞 健康診断 防災訓練 看護観発表 国家試験 卒業式 卒業記念講演
実習	基礎Ⅰ	基礎Ⅱ　成人・老年Ⅰ　領域別実習	地域・在宅看護論、成人・老年、小児、母性 精神看護学実習、統合実習
到達目標	・人間の尊重・生命の大切さ、人間の特性がわかる ・集団生活の中で自己を見つめ、人間関係のあり方を理解できる ・健康について理解し、自己の健康管理ができる ・正常な人間の心と身体の仕組みが理解できる ・自己理解、他者理解が出来、ともに関心が持てる ・看護過程を展開する基礎的知識が理解できる ・看護に必要な基礎的知識・技術・態度を学び、患者の日常生活援助が実践できる ・看護の概念を学び、看護の果たす役割が理解できる ・保健・医療・福祉チームの職種と活動の場が理解できる ・常に問題意識を持ち、考える態度を身につけることができる ・看護研究に関心がもてる ・看護学生としての自己を認識し、主体的に学習する習慣を身につけることができる ・国家試験に向けての学習の必要性が理解できる ・健康に対する社会情報や地域の特徴・健康状態に関心がもてる	・生命の尊さや個人の人格・倫理観を理解できる ・人間をライフサイクルによって捉え、各期の特徴、発達課題が理解できる ・健康のレベルを明確にし、健康から疾病を持った人間までを理解できる ・看護過程の展開技術が理解できる ・対象に応じた看護援助技術を身につけることができる ・集団生活の中で自己の役割を果たすことができる ・保健・医療・福祉チームの職種と役割が理解でき、自己の位置付けを明確にできる ・看護研究の基礎知識と必要性を理解できる ・自己を客観的に振り返る事ができる ・地域・社会での健康支援の必要性が理解できる ・自己学習力が定着し、看護を創造的に考える必要性が理解できる ・社会人基礎力の育成に向けて努力できる ・国家試験にそった学習方法が身につく	・生命の尊厳と人権を理解し尊重できる ・人間を総合的に理解できる ・主体的に看護が展開できる ・看護を総合的に理解できる ・看護の継続性のあり方を理解できる ・対象に応じた看護技術が実践できる ・看護管理・多職種連携の必要性が理解できる ・保健医療福祉チーム、看護チームの中でのリーダーシップのあり方を理解し、メンバーシップを身につけることができる ・看護実践を通して、看護を深め自己の看護観を明確にすることができる ・広く社会に目を向ける態度を養うことができ、自己の目指す進路が決定できる ・地域・社会の健康課題に関心を持ち、看護の果たす役割が理解できる。 ・社会人基礎力が身につく ・国家試験に１００％合格できる

2021.7.3 修正

令和4年4月

科目名	ロジカルシンキング	1単位　30時間	履修時期 ： 1年次　前期
科目目標	論理的思考の構造・法則を理解し、論理的な物事の考え方、自分の意見を論理的に書き、話す方法を学ぶ。		
事前学習	講義までに、提示している参考図書を熟読しておく。		

回数	講義内容	学習方法
第1回	ロジカルシンキングとは何か	講義
第2回	事実と意見	講義
第3回	自分の考えを言葉にする	講義
第4回	伝わる言葉の使い方	講義
第5回	情報の明確さ	講義
第6回	ピラミッドストラクチャー①	講義
第7回	ピラミッドストラクチャー②	講義
第8回	納得性の高いメッセージ　根拠	講義
第9回	論理展開　帰納法　実践	講義
第10回	論理展開　演繹法　①前提	講義
第11回	論理展開　演繹法　②実践	講義
第12回	報告書を書く　リフレクション	講義
第13回	プレゼンをする　1人3分スピーチ①	演習　発表
第14回	プレゼンをする　1人4分スピーチ②	演習　発表
第15回	まとめ　終講試験	

テキスト 参考書	1．図解でわかる ロジカルシンキング　渡辺まどか著　秀和システム		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	専門学校講師

令和4年4月

科目名	情報科学	1単位　30時間　　履修時期 ： 1年次　前期
科目目標	情報の利用や管理について理解し、情報を活用するための知識と方法を学ぶ。	
事前学習	講義までに、提示している参考図書を熟読しておく。	

回数	講義内容	学習方法
第1回	情報の定義　情報の特性	講義
第2回	コンピューター・インターネットに関する基礎知識	講義
第3回	情報倫理　情報セキュリティ	講義
第4回	情報通信技術とその活用	講義
第5回	ワードの活用方法	講義・演習
第6回	ワードの活用方法	演習
第7回	エクセルの活用方法	講義・演習
第8回	エクセルの活用方法	演習
第9回	パワーポイントの活用方法	講義・演習
第10回	パワーポイントの活用方法	演習
第11回	テーマを決めてパワーポイントで資料を作成	演習
第12回	テーマを決めてパワーポイントで資料を作成	演習
第13回	テーマを決めてパワーポイントで資料を作成	演習
第14回	プレゼンテーションの実施	演習
第15回	まとめ　終講試験	

テキスト 参考書	1．2022 事例でわかる情報モラル　実教出版		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	大学講師

令和4年4月

科目名	統計学	1単位　30時間	履修時期 ： 2年次　前期
科目目標	統計学的な思考に基づき、得られたデータを活用するために、統計分析の知識と方法を学ぶ。		
事前学習	1年生の『情報科学』で学んだ、エクセルの活用方法を復習しておく。		

回数	講義内容	学習方法
第1回	統計とは	講義
第2回	コンピュータへの入力の仕方	講義・演習
第3回	統計処理について	講義・演習
第4回	基本統計量の求め方	講義・演習
第5回	記述統計とは	講義・演習
第6回	推測統計とは	講義・演習
第7回	統計データの種類、まとめ方	講義・演習
第8回	グラフ・表	講義・演習
第9回	グラフ・表の作り方	講義・演習
第10回	確立と分布	講義・演習
第11回	検定の基礎知識	講義・演習
第12回	t検定	講義・演習
第13回	χ^2検定	講義・演習
第14回	相関係数の検定	講義・演習
第15回	まとめ　終講試験	

テキスト 参考書	1. 看護・医療系のための情報科学入門　第2版　サイオ出版 2. 系統看護学講座　基礎分野　統計学　医学書院
成績 評価方法	筆記試験

担当講師	実務経験がある講師	職種	大学講師

令和4年4月

科目名	人間と発達	2単位　30時間　履修時期 ： 1年次　後期
科目目標	人間存在の基本的なスピリチュアルな基盤の理解を深め、生涯にわたる発達段階での心理的、社会的、身体的な発達と阻害する要因を理解し、人間の発達的特徴を学ぶ。	
事前学習	「人間とは何か」自己の考えを整理しておく。	

回数	講義内容	学習方法
第1回	人間とは何か　人間という存在	講義
第2回	近代の人間観　現代の人間観	講義
第3回	人間と社会	講義
第4回	人間と言語	講義
第5回	人間と文化	講義
第6回	人間と心身　生涯発達とは	講義
第7回	胎児期・新生児期	講義
第8回	乳児期	講義
第9回	幼児期	講義
第10回	児童期	講義
第11回	青年期	講義
第12回	成人期	講義
第13回	老年期	講義
第14回	まとめ	講義
第15回	まとめ　終講試験	

テキスト 参考書	1．系統看護学講座　基礎分野　文化人類学　医学書院		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	大学講師

令和4年4月

科目名	心理学	1単位　30時間　　履修時期 ： 1年次　前期
科目目標	看護の対象である人間の心の動き、意識の働き、行動について学び、人間を多面的に理解する考え方を学ぶ。	
事前学習	講義までに、提示している参考図書を熟読しておく。	

回数	講義内容	学習方法
第1回	心理学とは何か	講義
第2回	視覚と認知	講義
第3回	欲求と動機づけ	講義
第4回	葛藤と欲求不満	講義
第5回	行動の変容と学習	講義
第6回	学習と記憶	講義
第7回	性格を理解する①	講義
第8回	性格を理解する②　　知能	講義・演習
第9回	人間の生涯と発達	講義
第10回	自己と対人、社会、集団	講義
第11回	ストレスの理解と対処	講義
第12回	カウンセリング①	講義
第13回	カウンセリング②、コミュニケーション	講義・演習
第14回	看護に活かす心理学	講義
第15回	まとめ　終講試験	

テキスト 参考書	1. 系統看護学講座　基礎分野　心理学　　医学書院 2. 配布資料
成績 評価方法	筆記試験

担当講師	実務経験がある講師	職種	臨床心理士

令和4年4月

科目名	社会と生活	1単位　30時間　　履修時期 ： 1年次　後期
科目目標	1. 社会生活を送る人間の社会関係、所属する集団の特性や地域社会の構造を学ぶ。 2. 社会の変化に伴う人間の社会的側面の理解、および社会生活支援の考え方を学ぶ。	
事前学習	講義までに、提示している参考図書を熟読しておく。	

回数	講義内容	学習方法
第1回	イントロダクション:「社会学」と「看護師」の関係性	講義 ディスカッション
第2回	アイデンンティティ:自己と社会	講義 ディスカッション
第3回	男性とは？　女性とは？:ジェンダーとセクシャリティー	講義 ディスカッション
第4回	健康と福祉:送り手(医療従事者)と受け手(患者ならびにその家族)の関係からの検討	講義 ディスカッション
第5回	家族・階級・階層	講義 ディスカッション
第6回	社会におけるメディア	講義 ディスカッション
第7回	市民社会・地域社会	講義 ディスカッション
第8回	「幸福」を考える①	講義 ディスカッション
第9回	「幸福」を考える②	講義 ディスカッション
第10回	「グローバリゼーション」を考える	講義 ディスカッション
第11回	「労働」と「仕事」を考える	講義 ディスカッション
第12回	「犯罪」を考える	講義 ディスカッション
第13回	「文化」を考える①	講義 ディスカッション
第14回	「文化」を考える②	講義 ディスカッション
第15回	まとめ　終講試験	

テキスト 参考書	1. 系統看護学講座　基礎分野　社会学　医学書院 2. 配布資料
成績 評価方法	筆記試験　70% 平常評価　30%

担当講師	実務経験がある講師	職種	大学講師

令和4年4月

科目名	教育学	1単位　30時間	履修時期 ： 1年次　前期
科目目標	1. 教育の本質、教育の目的、方法を理解し、看護における教育的かかわりとは何かを学ぶ。 2. 教育機能を効果的に活用する能力や、生涯教育の意義と自己教育力の必要性について学ぶ。		
事前学習	講義までに、提示している参考図書を熟読しておく。		

回数	講義内容	学習方法
第1回	教育とは　教育の目的・目標	講義
第2回	人間の発達と教育①　－子どもへの教育的まなざし－	講義
第3回	人間の発達と教育②　－人間の教育の必要性－	講義
第4回	家庭教育の現代的意味	講義
第5回	学校教育の成立と展開	講義
第6回	統一学校運動と新教育運動	講義
第7回	学校化社会の限界を超えて	講義
第8回	生涯学習の理念	講義
第9回	対話としての人間形成　－聴くという行為に注目して－	講義
第10回	情報・消費社会における大人－子ども関係の変化	講義
第11回	学校教育の現状と課題①　－学級崩壊－	講義
第12回	学校教育の現状と課題②　－いじめ問題－	講義
第13回	討議法　－KJ法・フィッシュボーン－	講義・演習
第14回	討議法　－KJ法・フィッシュボーン－	講義・演習
第15回	まとめ　終講試験	

テキスト 参考書	1. 保育・教育を考える　－保育者論から教育論へ－　あいり出版 2. 系統看護学講座　基礎分野　教育学　医学書院
成績 評価方法	筆記試験

担当講師	実務経験がある講師	職種	大学講師

令和4年4月

科目名	人間関係論	1単位　30時間　　履修時期 ： 1年次　前期
科目目標	体験を通して自己を知り、他者との関わりから人間理解につなげ、人間関係を成立させる能力を養う。また、対人援助に必要なカウンセリング理論について学ぶ。	
事前学習	講義までに、提示している参考図書を熟読しておく。	

回数	講義内容	学習方法
第1回	人間関係の基本的意義	講義
第2回	人間関係の中の自己	講義
第3回	出会いからの人間関係	講義
第4回	言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーション	講義・演習
第5回	他者との関係作り （コミュニケーション、アサーティブネス、コーチング　など）	講義
第6回	他者との関係作り （コミュニケーション、アサーティブネス、コーチング　など）	演習
第7回	好きと嫌いの人間関係	講義
第8回	援助の人間関係 （手助け心理学）	講義
第9回	支配と服従の人間関係	講義
第10回	集団の中の人間関係	講義
第11回	保健・医療・福祉援助における人間関係	講義
第12回	患者・家族との人間関係 （闘病の人間関係）	講義
第13回	医療チームの人間関係	講義
第14回	現代社会と人間関係	講義
第15回	まとめ　終講試験	

テキスト 参考書	1. 系統看護学講座　基礎分野　人間関係論　医学書院 2. 配布資料
成績 評価方法	筆記試験

担当講師	実務経験がある講師	職種	大学講師

令和4年4月

科目名	倫理学	1単位　15時間　　履修時期 ： 1年次　後期
科目目標	人間の生命や存在、死生観、人生観など自己の価値観を確立する為に必要な知識を学ぶ。	
事前学習	講義までに、提示している参考図書を熟読しておく。	

回数	講義内容	学習方法
第1回	倫理とは何か	講義・演習
第2回	生命倫理に関する重要概念： インフォームドコンセントと意思決定	講義・演習
第3回	性と生殖の生命倫理	講義・演習
第4回	死の生命倫理 先端医療と制度をめぐる生命倫理	講義・演習
第5回	看護倫理とは 現在医療における倫理的課題	講義・演習
第6回	倫理原則と医療における基本権利 看護実践上の倫理的概念	講義・演習
第7回	看護専門職における倫理綱領 倫理的視座から事例検討	講義・演習
第8回 （45分）	終講試験	

テキスト 参考書	1．系統看護学講座　別巻　看護倫理　　医学書院 2．配布資料
成績 評価方法	筆記試験

担当講師	実務経験がある講師	職種	大学講師

令和4年4月

科目名	礼節と感性	1単位　15時間	履修時期 ： 1年次　前期
科目目標	1. 社会の一員として良識を持ち他者と協調する中で、責任ある行動が取れる態度を身につける。 2. 他者との関係形成に必要な礼節と感性を高めるための知識・考え方を学ぶ。		
事前学習	自分の日常的な行動を振り返っておく。 感性の磨き方の関心のある分野を考えておく。		

回数	講義内容	学習方法
第1回	医療人としての礼節の必要性　多職種と関わること	講義・演習
第2回	話す：信頼関係　言葉使い　敬語の使い方（尊敬語・謙譲語）	講義・演習
第3回	行動する：接遇　マナー（意義・身だしなみ・挨拶）	講義・演習
第4回	書く：手紙　レポートの書き方　　感性の意義	講義・演習
第5回	自己で選択した分野で感性を磨く①	演習
第6回	自己で選択した分野で感性を磨く②	演習
第7回	学びの共有　自己評価	演習
第8回 （45分）	課題レポート作成	

テキスト 参考書	1. 配布資料		
成績 評価方法	課題レポート		
担当講師	実務経験がある講師	職種	接遇インストラクター

令和4年4月

科目名	地域魅力発見	1単位　15時間	履修時期 ： 1年次　前期・後期
科目目標	1．丹波市の歴史や暮らしを理解して、地域に関心を持つことができる。 2．丹波市の特徴をICTを活用して他者に発信できる。		
事前学習	丹波市市勢要覧を読んでおく。		

回数	講義内容	学習方法
第1回	丹波市の概要	講義
第2回	テーマ決定と事前準備 テーマに関する文献検索・フィールドの決定	演習
第3回	フィールドワーク	地域学習
第4回	フィールドワーク	地域学習
第5回	フィールドワーク	地域学習
第6回	プレゼンテーションの準備	演習
第7回	プレゼンテーション	演習
第8回 （45分）	課題レポート作成	

テキスト 参考書	1．丹波市市勢要覧 2．配布資料		
成績 評価方法	課題レポート		
担当講師	実務経験がある講師	職種	丹波市副市長　他

令和4年4月

科目名	外国の文化	1単位　15時間	履修時期 ： 2年次　後期
科目目標	諸外国の文化と現状について学び、日本との違いを理解した上で多文化共生に関心を持ち、将来、国際活動ができる基盤をつくる。		
事前学習	自分の興味のある国の文化を調べておく。		

回数	講義内容	学習方法
第1回	多文化の現状　世界の文化を広く知る①	講義
第2回	多文化の現状　世界の文化を広く知る②	講義
第3回	多文化の現状　世界の文化を広く知る③	講義
第4回	多文化の現状　世界の文化を広く知る④	講義
第5回	多文化の現状　世界の文化を広く知る⑤	講義
第6回	外国人が安心して医療を受けられるための課題発見	演習
第7回	外国人が安心して医療を受けられるための対策	演習・発表
第8回 （45分）	課題レポート作成	

テキスト 参考書	1．配布資料
成績 評価方法	課題レポート

担当講師	実務経験がある講師	職種	大学講師　他

令和4年4月

科目名	外国語	1単位　30時間	履修時期 ： 2年次　後期
科目目標	多文化共生の視点を持ち、外国人が地域で安心して医療を受けられるためのコミュニケーションの基本を学ぶ。		
事前学習	自分が社会生活を送るうえで、どのような言葉をかけてもらえば“安心して生活できる”のかを考えておく。		

回数	講義内容	学習方法
第1回	専門英語基礎①	講義・演習
第2回	専門英語基礎②	講義・演習
第3回	専門英語基礎③	講義・演習
第4回	専門英語基礎④	講義・演習
第5回	専門英語基礎⑤	講義・演習
第6回	英会話①　挨拶	講義・演習
第7回	英会話②　自己紹介	講義・演習
第8回	英会話③　病院で多い訴え	講義・演習
第9回	英会話④　ハロウィン・パーティ	演習
第10回	英会話⑤　クリスマス	演習
第11回	丹波市在住の多い国 ： 中国語	講義・演習
第12回	丹波市在住の多い国 ： 中国語	講義・演習
第13回	丹波市在住の多い国 ： 中国語	講義・演習
第14回	丹波市在住の多い国 ： 中国語	講義・演習
第15回	まとめ　終講試験	

テキスト 参考書	1．配布資料		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	大学講師　他

令和4年4月

科目名	形態機能学Ⅰ	1単位　30時間　　履修時期 ： 1年次　前期
科目目標	人体を構成する組織、器官の構造と機能、およびそれらの相互関係について系統的に学び、生体の正常像と生命現象のしくみを理解する。	
事前学習	講義までに、提示している参考図書を読んで参加する。	

回数	講義内容	学習方法
第1回	ガイダンス　細胞の構造と機能	講義
第2回	人体を構成する細胞	講義
第3回	皮膚と膜	講義
第4回	体熱産生と体温	講義
第5回	細胞分裂と遺伝情報	講義
第6回	染色体の構造と異常	講義
第7回	先天異常の分類	講義
第8回	遺伝形式と多因子遺伝病	講義
第9回	造血と細胞の種類	講義
第10回	凝固と止血のしくみ、線溶	講義
第11回	体液性免疫と血球細胞	講義
第12回	体液性免疫と血球細胞	講義
第13回	血液型と輸血	講義
第14回	ホメオスタシス、フィードバックの機構	講義
第15回	まとめ　終講試験	

テキスト 参考書	1. ナーシンググラフィカ　人体の構造と機能①　解剖生理学　メディカ出版 2. 新版　からだの地図帳　講談社 3. 新版　病気の地図帳　講談社
成績 評価方法	筆記試験

担当講師	実務経験がある講師	職種	臨床検査技師

令和4年4月

科目名	形態機能学Ⅱ	1単位　30時間　　履修時期 ： 1年次　前期
科目目標	人体を構成する組織、器官の構造と機能、およびそれらの相互関係について系統的に学び、生体の正常像と生命現象のしくみを理解する。	
事前学習	講義までに、提示している参考図書を読んで参加する。	

回数	講義内容	学習方法
第1回	呼吸器系1 （気管と肺）	講義
第2回	呼吸器系1 （気管と肺）	講義
第3回	呼吸器系2 （呼吸運動と調節）	講義
第4回	呼吸器系2 （呼吸運動と調節）	講義
第5回	呼吸器系2 （呼吸運動と調節）	講義
第6回	呼吸器系3 （ガス交換）	講義
第7回	呼吸器系3 （ガス交換）	講義
第8回	循環器系1 （心臓）	講義
第9回	循環器系1 （心臓）	講義
第10回	循環器系1 （心臓）	講義
第11回	循環器系2 （血管）	講義
第12回	循環器系2 （血管）	講義
第13回	循環器系3 （リンパ系）	講義
第14回	循環器系4 （循環の調節）	講義
第15回	まとめ　終講試験	

テキスト 参考書	1. ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学　メディカ出版 2. 新版 からだの地図帳　講談社 3. 新版 病気の地図帳　講談社
成績 評価方法	筆記試験

担当講師	実務経験がある講師	職種	医師

令和4年4月

科目名	形態機能学Ⅲ	1単位　30時間　　履修時期 ： 1年次　前期
科目目標	人体を構成する組織、器官の構造と機能、およびそれらの相互関係について系統的に学び、生体の正常像と生命現象のしくみを理解する。	
事前学習	講義までに、提示している参考図書を読んで参加する。	

回数	講義内容	学習方法
第1回	消化器系1 （食道・胃・小腸・大腸）	講義
第2回	消化器系1 （食道・胃・小腸・大腸）	講義
第3回	消化器系2 （肝臓・胆嚢・膵臓・脾臓）	講義
第4回	消化器系2 （肝臓・胆嚢・膵臓・脾臓）	講義
第5回	消化器系3 （消化と吸収・排泄）	講義
第6回	消化器系3 （消化と吸収・排泄）	講義
第7回	泌尿器系1 （腎臓）	講義
第8回	泌尿器系1 （腎臓）	講義
第9回	泌尿器系2 （膀胱と排泄）	講義
第10回	生殖器系1 （男性）	講義
第11回	生殖器系2 （女性）	講義
第12回	内分泌系1 （膵臓・副腎）	講義
第13回	内分泌系2 （自律神経）	講義
第14回	内分泌系3 （視床下部・甲状腺）	講義
第15回	まとめ　終講試験	

テキスト 参考書	1. ナーシンググラフィカ　人体の構造と機能①　解剖生理学　メディカ出版 2. 新版　からだの地図帳　講談社 3. 新版　病気の地図帳　講談社
成績 評価方法	筆記試験

担当講師	実務経験がある講師	職種	臨床検査技師

令和4年4月

科目名	形態機能学Ⅳ	1単位　30時間　履修時期 ： 1年次　前期
科目目標	人体を構成する組織、器官の構造と機能、およびそれらの相互関係について系統的に学び、生体の正常像と生命現象のしくみを理解する。	
事前学習	講義までに、提示している参考図書を読んで参加する。	

回数	講義内容	学習方法
第1回	神経系の分類　　神経組織の構造と機能	講義
第2回	中枢神経系1	講義
第3回	中枢神経系2	講義
第4回	末梢神経系1	講義
第5回	末梢神経系2	講義
第6回	生体のリズム	講義
第7回	骨と骨格、頭蓋、体幹の骨格	講義
第8回	体肢の骨格、関節の構造と種類	講義
第9回	筋の種類・機能	講義
第10回	骨格筋の機能と構造	講義
第11回	眼球の機能と構造	講義
第12回	聴覚の機能と構造	講義
第13回	臭覚・味覚の機能と構造	講義
第14回	体性感覚の機能と構造	講義
第15回	まとめ　終講試験	

テキスト 参考書	1. ナーシンググラフィカ　人体の構造と機能①　解剖生理学　メディカ出版 2. 新版　からだの地図帳　講談社 3. 新版　病気の地図帳　講談社 4. 系統看護学講座　専門分野　成人看護学12　皮膚　医学書院 5. 系統看護学講座　専門分野　成人看護学13　眼　医学書院 6. 系統看護学講座　専門分野　成人看護学14　耳鼻咽喉　医学書院
成績 評価方法	筆記試験

担当講師	実務経験がある講師	職種	医師

令和4年4月

科目名	生化学	1単位　30時間　　履修時期 ： 1年次　前期
科目目標	人間を構成している物質の特性と機能を理解し、生命現象を科学的に判断するための知識を学ぶ。	
事前学習	事前に提示している参考図書を読んで参加する。	

回数	講義内容	学習方法
第1回	基礎化学・生物	講義
第2回	タンパク質の化学	講義
第3回	タンパク質の化学	講義
第4回	酵素　糖質の化学	講義
第5回	糖代謝	講義
第6回	糖代謝	講義
第7回	脂質の化学　　脂質代謝	講義
第8回	脂質代謝　　アミノ酸代謝	講義
第9回	アミノ酸代謝　　核酸の化学	講義
第10回	核酸の化学　　タンパク合成	講義
第11回	核酸(タンパク合成)ホルモン	講義
第12回	ホルモン	講義
第13回	ビタミン	講義
第14回	免疫	講義
第15回	まとめ　終講試験	

テキスト 参考書	1. ここが知りたい！生化学　～生命のふしぎを理解する～　　学術研究出版		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	大学講師

令和4年4月

科目名	病理学	1単位　15時間	履修時期 ： 1年次　前期
科目目標	疾病の原因とそれに対する生体反応、病気の経過・転帰から、各臓器がどのような変化をもたらすのかを学ぶ。		
事前学習	講義までに、提示している参考図書を読んで参加する。		

回数	講義内容	学習方法
第1回	細胞・組織の損傷と修復	講義
第2回	炎症と免疫	講義
第3回	代謝障害	講義
第4回	腫瘍	講義
第5回	循環障害	講義
第6回	感染症	講義
第7回	先天異常と遺伝子異常	講義
第8回 （45分）	終講試験	

テキスト 参考書	1．系統看護学講座　専門基礎　疾病のなりたちと回復の促進1　病理学　医学書院
成績 評価方法	筆記試験

担当講師	実務経験がある講師	職種	医師

令和4年4月

科目名	治療学	1単位　30時間	履修時期 ： 1年次　後期
科目目標	主な治療法の目的・特徴を理解し、治療が及ぼす生態への影響を学ぶ。		
事前学習	講義までに、提示している参考図書を読んで参加する。		

回数	講義内容		学習方法
第1回	手術療法	手術療法の目的と意義、分類	講義
第2回	手術療法	術前・術中・術後の管理	講義
第3回	手術療法	生体反応 （創傷治癒・神経・内分泌反応）	講義
第4回	手術療法	生体反応 （代謝系反応・サイトカイン）	講義
第5回	麻酔	麻酔の知識	講義
第6回	麻酔	全身麻酔法　局所麻酔法	講義
第7回	内視鏡療法	内視鏡的治療の目的	講義
第8回	内視鏡療法	内視鏡的治療の実際	講義
第9回	放射線療法	放射線療法とは	講義
第10回	放射線療法	放射線の種類と特徴・適応	講義
第11回	放射線療法	放射線障害と防御	講義
第12回	放射線療法	放射線科の見学	講義・見学
第13回	リハビリテーション療法	リハビリテーション療法の概念	講義
第14回	リハビリテーション療法	リハビリテーション療法の目的・対象	講義
第15回		まとめ　終講試験	

テキスト 参考書	1．系統看護学講座　別巻　臨床放射線医学　医学書院 2．系統看護学講座　別巻　リハビリテーション看護　医学書院 3．よくわかる周手術期看護　学研 4．周手術期看護2　術中／術後の生体反応と急性期看護　第3版　医歯薬出版株式会社
成績 評価方法	筆記試験

担当講師	実務経験がある講師	職種	医師

令和4年4月

科目名	病態生理学Ⅰ	1単位　30時間　　履修時期 ： 1年次　後期	
科目目標	系統別の主な疾患の病態生理、検査、治療について理解し、看護判断、看護行為に活用するための知識を学ぶ。		
事前学習	講義までに、提示している参考図書を読んで参加する。		
回数	講義内容		学習方法
第1回	呼吸器系	感染症・間質性肺炎	講義
第2回	呼吸器系	慢性閉塞性肺疾患・肺血栓症	講義
第3回	呼吸器系	気道疾患	講義
第4回	呼吸器系	肺がん・気胸・肺結核	講義
第5回	循環器系	虚血性心疾患・不整脈	講義
第6回	循環器系	心不全・大動脈疾患・高血圧	講義
第7回	循環器系	心臓弁膜症・心筋疾患	講義
第8回	血液・造血器系	赤血球の異常	講義
第9回	血液・造血器系	白血球の異常・血小板の異常	講義
第10回	消化器系	食道・胃の疾患	講義
第11回	消化器系	小腸疾患・腹膜疾患	講義
第12回	消化器系	大腸疾患・乳がん	講義
第13回	消化器系	肝臓疾患・胆嚢疾患	講義
第14回	消化器系	膵炎・膵臓がん	講義
第15回		まとめ　終講試験	
テキスト 参考書	1. 系統看護学講座　専門分野　成人看護学2　呼吸器　医学書院 2. 系統看護学講座　専門分野　成人看護学3　循環器　医学書院 3. 系統看護学講座　専門分野　成人看護学4　血液・造血器　医学書院 4. 系統看護学講座　専門分野　成人看護学5　消化器　医学書院 5. 系統看護学講座　専門分野　成人看護学9　女性生殖器　医学書院 6. 新版　病気の地図帳　講談社 7. よくわかる周手術期看護　学研		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	医師

令和4年4月

科目名	病態生理学Ⅱ	1単位　30時間　　履修時期 ： 1年次　後期	
科目目標	系統別の主な疾患の病態生理、検査、治療について理解し、看護判断、看護行為に活用するための知識を学ぶ。		
事前学習	講義までに、提示している参考図書を読んで参加する。		
回数	講義内容		学習方法
第1回	内分泌・代謝系	内分泌疾患	講義
第2回	内分泌・代謝系	糖尿病	講義
第3回	内分泌・代謝系	膠原病・HIV	講義
第4回	脳・神経系	脳内出血・脳梗塞・高次機能障害	講義
第5回	脳・神経系	くも膜下出血・脳腫瘍	講義
第6回	脳・神経系	水頭症・頭部外傷	講義
第7回	腎臓系	ネフローゼ症候群・腎炎	講義
第8回	腎臓系	CKD・腎不全・人工透析	講義
第9回	腎臓系	糖尿病性腎症・腎血管性病変	講義
第10回	泌尿器系	前立腺肥大症・尿路結石・前立腺がん	講義
第11回	泌尿器系	尿路・性器感染症、男性の不妊症	講義
第12回	骨・関節系	骨折・骨肉腫	講義
第13回	骨・関節系	骨・関節の炎症性疾患	講義
第14回	骨・関節系	末梢神経障害・脊椎の疾患	講義
第15回		まとめ　終講試験	
テキスト 参考書	1. 系統看護学講座　専門分野　成人看護学6　内分泌・代謝　医学書院 2. 系統看護学講座　専門分野　成人看護学7　脳・神経　医学書院 3. 系統看護学講座　専門分野　成人看護学8　腎・泌尿器　医学書院 4. 系統看護学講座　専門分野　成人看護学10　運動器　医学書院 5. 系統看護学講座　専門分野　成人看護学11　アレルギー・膠原病・感染症　医学書院 6. 新版　病気の地図帳　講談社		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	医師

令和4年4月

科目名	病態生理学Ⅲ	1単位　30時間　　履修時期 ： 2年次　前期	
科目目標	系統別の主な疾患の病態生理、検査、治療について理解し、看護判断、看護行為に活用するための知識を学ぶ。		
事前学習	講義までに、提示している参考図書を読んで参加する。		
回数	講義内容		学習方法
第1回	小児特有の疾患	染色体異常・先天異常・新生児の疾患	講義
第2回	小児特有の疾患	代謝性疾患・アレルギー性疾患・感染症	講義
第3回	小児特有の疾患	呼吸器疾患・循環器疾患	講義
第4回	小児特有の疾患	消化器疾患・血液造血器疾患	講義
第5回	小児特有の疾患	腎・泌尿器疾患・神経疾患	講義
第6回	母性・女性	妊娠期の感染症・異常妊娠・異常分娩	講義
第7回	母性・女性	血栓症・周産期の出血・糖尿病合併妊婦	講義
第8回	母性・女性	子宮筋腫・子宮がん・子宮内膜症・絨毛性疾患	講義
第9回	母性・女性	性感染症・不妊症・妊娠高血圧症候群	講義
第10回	精神	発達障害・認知症	講義
第11回	精神	気分障害	講義
第12回	精神	統合失調症	講義
第13回	精神	躁うつ病・神経症性障害	講義
第14回	精神	アルコール依存症	講義
第15回		まとめ　終講試験	
テキスト 参考書	1. 系統看護学講座　専門分野　小児看護学2　小児臨床看護各論　医学書院 2. 系統看護学講座　専門分野　母性看護学2　母性看護学各論　医学書院 3. 系統看護学講座　専門分野　精神看護学1　精神看護の基礎　医学書院		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	医師

令和4年4月

科目名	病態生理学Ⅳ	1単位　15時間	履修時期 ： 2年次　前期
科目目標	系統別の主な疾患の病態生理、検査、治療について理解し、看護判断、看護行為に活用するための知識を学ぶ。		
事前学習	講義までに、提示している参考図書を読んで参加する。		

回数	講義内容		学習方法
第1回	難病	筋疾患・神経筋接合部疾患	講義
第2回	難病	脱髄・変性疾患	講義
第3回	難病	てんかん・アルツハイマー認知症	講義
第4回	皮膚	熱傷、表在性皮膚疾患	講義
第5回	皮膚	微生物の関与、発疹学	講義
第6回	眼科	白内障、緑内障、網膜はく離	講義
第7回	歯・口腔	う歯・歯肉炎・辺縁性歯周炎	講義
第8回 （45分）		終講試験	

テキスト 参考書	1．系統看護学講座　専門分野　成人看護学7　脳・神経　医学書院 2．系統看護学講座　専門分野　成人看護学11　アレルギー・膠原病・感染症　医学書院 3．系統看護学講座　専門分野　成人看護学12　皮膚　医学書院 4．系統看護学講座　専門分野　成人看護学13　眼　医学書院 5．系統看護学講座　専門分野　成人看護学15　歯・口腔　医学書院
成績 評価方法	筆記試験

担当講師	実務経験がある講師	職種	医師

令和4年4月

科目名	微生物学	1単位　30時間　　履修時期 ： 1年次　前期
科目目標	微生物の特徴と生態に及ぼす影響について理解し、生態防御機構と感染予防について学ぶ。	
事前学習	講義までに、提示している参考図書を読んで参加する。	

回数	講義内容	学習方法
第1回	微生物と微生物学　　細菌の性質	講義
第2回	真菌の性質　原虫の性質　ウイルスの性質	講義
第3回	感染と感染症	講義
第4回	感染に対する生体防御機構	講義
第5回	感染源・感染経路からみた感染症　滅菌と消毒	講義
第6回	感染症の検査と診断　感染症の治療	講義
第7回	感染症の現状と対策	講義
第8回	病原細菌と細菌感染症	講義
第9回	病原細菌と細菌感染症	講義
第10回	病原真菌と真菌感染症	講義
第11回	病原原虫と原虫感染症	講義
第12回	病原ウイルスとウイルス感染症	講義
第13回	病原ウイルスとウイルス感染症	講義
第14回	病原ウイルスとウイルス感染症	講義
第15回	まとめ　終講試験	

テキスト 参考書	1. 系統看護学講座　専門基礎　人体の構造と機能4　微生物学　医学書院		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	臨床検査技師

令和4年4月

科目名	薬理学	1単位　30時間　　履修時期 ： 1年次　後期
科目目標	薬物の特徴、作用機序、人体への影響について理解し、薬物の安全な取り扱いと系統別の主な薬剤について学ぶ。	
事前学習	講義までに、提示している参考図書を読んで参加する。	

回数	講義内容	学習方法
第1回	薬理学総論　薬の基本	講義
第2回	薬理学総論　相互作用の基礎	講義
第3回	薬理学総論　薬物動態学	講義
第4回	抗感染症薬　総論	講義
第5回	抗感染症　耐性メカニズム	講義
第6回	抗がん剤	講義
第7回	免疫治療薬	講義
第8回	自律神経作動薬	講義
第9回	抗高血圧薬について	講義
第10回	狭心症治療薬について	講義
第11回	不整脈薬について	講義
第12回	疼痛治療について	講義
第13回	脂質異常症治療薬	講義
第14回	糖尿病治療薬について	講義
第15回	まとめ　終講試験	

テキスト 参考書	1. 系統看護学講座　専門基礎　人体の構造と機能3　栄養学　医学書院		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	薬剤師

令和4年4月

科目名	栄養学	1単位　15時間	履修時期 ： 1年次　後期
科目目標	健康な生活を営むための栄養について理解し、疾病治療の食事療法の基本を学ぶ。		
事前学習	講義までに、提示している参考図書を読んで参加する。		

回数	講義内容	学習方法
第1回	人間栄養学と看護　栄養素の種類とはたらき	講義
第2回	食物の消化と栄養素の吸収・代謝　エネルギー代謝	講義
第3回	食事と食品　栄養ケア・マネジメント	講義
第4回	栄養状態の評価・判定　ライフステージと栄養	講義
第5回	臨床栄養	講義
第6回	臨床栄養	講義
第7回	健康づくりと食生活	講義
第8回 （45分）	終講試験	

テキスト 参考書	1. 系統看護学講座　専門基礎　人体の構造と機能3　栄養学　医学書院 2. 系統看護学講座　別巻　栄養食事療法　医学書院
成績 評価方法	筆記試験

担当講師	実務経験がある講師	職種	管理栄養士

令和4年4月

科目名	フィジカルアセスメント	1単位　30時間　　履修時期 ： 1年次　前期・後期
科目目標	形態機能学、病態生理学の知識を基盤として、看護実践につなげるための観察方法とデータの分析方法を学ぶ。	
事前学習	形態機能学、病理学、病態生理学で学んだことを復習しておく。	

回数	講義内容	学習方法
第1回	フィジカルアセスメントとは	講義
第2回	視診　触診　打診　聴診	講義
第3回	診察の介助　　身体計測　　検査データの見方	講義
第4回	体温測定　　温罨法と冷罨法	講義・校内実習
第5回	脳神経の観察	講義・校内実習
第6回	呼吸器系・循環器系の観察	講義・校内実習
第7回	脈拍測定　　血圧測定	講義
第8回	血圧測定の準備	校内実習
第9回	バイタルサイン測定の実際	校内実習
第10回	バイタルサイン測定の実際	校内実習
第11回	感覚器系の観察　　外皮系の観察	講義
第12回	消化器系の観察	講義・校内実習
第13回	筋肉・骨格系の観察	講義
第14回	記録・報告	講義
第15回	まとめ　終講試験	

テキスト 参考書	1. はじめてのフィジカルアセスメント　第2版　メヂカルフレンド社 2. 看護過程に沿った対症看護　第5版　ー病態生理と看護のポイントー　学研 3. 看護技術プラクティス　第4版　学研 4. ケアに活かす検査値ガイド　第2版　照林社		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

令和4年4月

科目名	疾病理解の思考	1単位　15時間	履修時期 ： 3年次　前期
科目目標	対象の健康状態・現状を判断するための病態理解の思考を理解し、事例展開を通して臨床判断能力を深める。		
事前学習	形態機能学、病理学、病態生理学、治療学で学んだ内容を復習しておく。		

回数	講義内容	学習方法
第1回	事例展開①	演習
第2回	事例展開①	演習
第3回	事例展開①	演習
第4回	事例展開①のまとめ	講義
第5回	事例展開②	演習
第6回	事例展開②	演習
第7回	事例展開②	演習
第8回 （45分）	事例展開②のまとめ	講義

テキスト 参考書	1．形態機能学、病理学、病態生理学活用したテキスト 2．看護過程に沿った対症看護　第5版　－病態生理と看護のポイント－　　学研 3．看護技術プラクティス　第4版　　学研 4．ケアに活かす検査値ガイド　第2版　　照林社
成績 評価方法	課題レポート

担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

令和4年4月

科目名	健康を護り育む	1単位　15時間	履修時期 ： 1年次　後期
科目目標	「丹波市」を題材として、医療や保健・福祉の現状（地域特性、社会資源、地域の健康課題、地域を基盤にした健康生活支援課題等）を理解し、地域社会における医療の位置づけ及び必要性を学ぶ。		
事前学習	講義までに、提示している参考図書を読んで参加する。		

回数	講義内容	学習方法
第1回	丹波市の特徴 （人口、人口動態、地理的環境、社会的環境）	講義
第2回	成人に対する保健活動 （地域における保健活動の実際①）	講義
第3回	成人に対する保健活動 （地域における保健活動の実際②）	講義
第4回	小児における保健活動 （地域における子育支援）	講義
第5回	小児における保健活動 （乳幼児の健康診査と保健指導）	講義
第6回	母性における保健活動 （母子保健対策）	講義
第7回	精神における保健活動 （精神障害者の保健医療福祉）	講義
第8回 （45分）	終講試験	

テキスト 参考書	1．健康丹波21 2．国民衛生の動向 3．系統看護学講座　専門基礎　健康支援と社会保障制度2　公衆衛生　　医学書院 4．系統看護学講座　専門分野　成人看護学1　成人看護学総論　　医学書院 5．系統看護学講座　専門分野　小児看護学1　小児看護学概論　小児臨床看護総論　医学書院 6．系統看護学講座　専門分野　母性看護学1　母性看護学概論　　医学書院
成績 評価方法	課題レポート

担当講師	実務経験がある講師	職種	保健師

令和4年4月

科目名	公衆衛生学	1単位　15時間	履修時期 ： 2年次　後期
科目目標	公衆衛生に関する統計・情報を理解し、情報を活用した保健活動について学ぶ。		
事前学習	講義までに、提示している参考図書を読んで参加する。		

回数	講義内容	学習方法
第1回	公衆衛生とは　　プライマリーヘルスケア	講義
第2回	疫学と健康指標　　ヘルスプロモーション	講義
第3回	超少子高齢社会の保健所市町村対策	講義
第4回	地域保健　　健康作りと地域　災害と保健活動	講義
第5回	対象別公衆衛生の実践　感染症対策	講義
第6回	対象別公衆衛生の実践 地域精神保健を支えるための仕組み	講義
第7回	対象別公衆衛生の実践　難病支援	講義
第8回 （45分）	終講試験	

テキスト 参考書	1．系統看護学講座　専門基礎　健康支援と社会保障制度2　公衆衛生　　医学書院 2．国民衛生の動向
成績 評価方法	筆記試験

担当講師	実務経験がある講師	職種	医師・保健師

令和4年4月

科目名	看護をめぐる法律	2単位　30時間	履修時期 ： 2年次　前期
科目目標	医療および保健衛生に関する法令と制度を理解し、保健医療活動や看護師の業務と法律の関係性について学ぶ。		
事前学習	講義までに、提示している参考図書を読んで参加する。		

回数	講義内容	学習方法
第1回	法の概念	講義
第2回	医療の変遷と医療法	講義
第3回	医療法と診療報酬、医療法施行規則	講義
第4回	保険に関する法律	講義
第5回	労働衛生に関する法規	講義
第6回	環境に関する法規	講義
第7回	保健師助産師看護師法	講義
第8回	看護師等の人材確保の促進に関する法律	講義
第9回	協働する職種職種	演習
第10回	協働する職種職種のプレゼンテーション	演習
第11回	医療を支える法律	講義
第12回	高齢者の福祉に関する法律	講義
第13回	小児の福祉に関する法律	講義
第14回	障害者の福祉に関する法律	講義
第15回	まとめ　終講試験	

テキスト 参考書	1．系統看護学講座　専門基礎　健康支援と社会保障制度4　看護関係法令　医学書院 2．看護六法　2022年度版
成績 評価方法	筆記試験

担当講師	実務経験がある講師	職種	大学講師・専任教員

令和4年4月

科目名	社会と福祉制度	2単位　30時間　　履修時期 ： 2年次　前期
科目目標	社会保障・社会福祉制度や政策について学び、医療と福祉の連携の意義を理解する。	
事前学習	講義までに、提示している参考図書を読んで参加する。	

回数	講義内容	学習方法
第1回	現代社会と社会福祉の理念	講義
第2回	社会保障制度	講義
第3回	社会福祉の法律と行政	講義
第4回	社会保障・社会福祉の動向	講義
第5回	医療保障 ： 医療保険制度	講義
第6回	介護保障 ： 介護保険制度	講義
第7回	所得保障 ： 年金保険制度　労働保険制度	講義
第8回	公的扶助 ： 生活保護制度	講義
第9回	高齢者福祉	講義
第10回	障がい者福祉	講義
第11回	児童家庭福祉	講義
第12回	社会福祉援助	講義
第13回	社会福祉援助の課題	講義
第14回	保健・医療・福祉の連携	講義
第15回	まとめ　終講試験	

テキスト 参考書	1．系統看護学講座　専門基礎　健康支援と社会保障制度3　社会保障・社会福祉　医学書院
成績 評価方法	筆記試験

担当講師	実務経験がある講師	職種	大学講師

基礎看護学　　14単位　（ 435時間 ）

目的 ： 看護の対象である人間を総合的に捉え、健康の意義と社会における看護の役割を理解し、科学的根拠に基づく看護を実践するために必要な知識・技術・態度を学ぶ。

授業科目名	単位数	時間数	目　的		
看護学概論Ⅰ	1	30	看護の概念をとらえ、その本質を理解すると共に、保健・医療・福祉における看護の機能と役割を学ぶ。		
看護学概論Ⅱ	1	15	看護理論家の考え方を学び、自己の看護観の確立に役立てる。		
安全を守る技術	1	30	生命の安全を守る看護者としての責任を果たすための方法を学ぶ。		
生活援助技術Ⅰ	1	30	看護ケアを科学的に検証するためのエビデンスに基づく援助方法を学ぶ。	1．活動・休息 2．体位・移動 3．環境	4 10 14
生活援助技術Ⅱ	1	30		1．食事・排泄 2．衣生活・清潔	10 18
診療の補助技術Ⅰ	1	30	健康障害をもつ対象を理解し、治療に応じた看護実践の方法を学ぶ。	1．浣腸・導尿 2．吸引・吸入・洗浄	14 14
診療の補助技術Ⅱ	1	30		1．検査 2．与薬	10 18
臨床につなぐ技術Ⅰ	1	30	臨床に活用できる看護実践の方法を学ぶ。	1．周手術期 2．ME機器	18 10
臨床につなぐ技術Ⅱ	1	15		1．安静・食事療法 2．輸液・輸血療法 3．救急法	4 4 6
看護過程	1	30	看護を科学的に思考して看護実践に活用するプロセスを学ぶ。		
看護研究	1	30	看護を発展的に思考するための研究のプロセスを理解し、研究的態度の必要性を学ぶ。		
小　計	11	300			
基礎看護学実習Ⅰ	1	45	患者の基本的欲求を把握し、問題解決思考を用いて援助の必要性がわかり、日常生活の援助方法を学ぶ。		
基礎看護学実習Ⅱ	2	90	受け持ち患者の援助を通して看護過程のプロセスを展開する。		
小　計	3	135			
総　計	14	435			

令和4年4月

科目名	看護学概論Ⅰ	1単位　30時間　　履修時期　：　1年次　　前期・後期	
科目目標	1. 看護の主要概念である「人間」・「健康」・「環境」・「看護」とその関係について学び、看護の本質を理解する。 2. 看護の歴史的な変遷や社会における看護の役割・機能について学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	看護師のイメージを考える	看護の定義　　看護専門職	講義
第2回	テキストの該当箇所を読んでおく	医療法の変遷と医療、看護の変遷と歴史	講義
第3回	テキストの該当箇所を読んでおく	看護教育体制と看護スペシャリスト	講義
第4回	ナイチンゲールについて調べておく	ナイチンゲールの生涯	講義
第5回	テキストの該当箇所を読んでおく	看護の対象	講義
第6回	テキストの該当箇所を読んでおく	健康とは　　療養環境	講義
第7回	テキストの該当箇所を読んでおく	患者を支える関連職種と業務①	演習
第8回		患者を支える関連職種と業務②	演習
第9回		患者を支える関連職種と業務③	発表
第10回	テキストの該当箇所を読んでおく	保健・医療・福祉システム	講義
第11回	テキストの該当箇所を読んでおく	看護過程	講義
第12回	テキストの該当箇所を読んでおく	看護と法規	講義
第13回	患者の生活環境、患者を支える関連職種を復習しておく	病院見学　（患者の生活環境、看護実践の場） （病院で働く関連職種）	病院見学
第14回			
第15回		まとめ　　終講試験	
テキスト 参考書	1. 系統看護学講座　専門分野　基礎看護学①　看護学概論　　医学書院 2. 看護覚え書き　　現代社 3. 看護の基本となるもの　　日本看護協会出版会 4. 看護六法　2021年度版　　新日本法規		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

令和4年4月

科目名	看護学概論Ⅱ	1単位　15時間　　履修時期　：　2年次　　後期	
科目目標	看護理論家の考えを通して、自らの看護観を築していくための手がかりとする。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	テキストの該当箇所を読んでおく	看護理論家の看護に対する考え方 （グループワーク）	演習
第2回		看護理論家の看護に対する考え方 （グループワーク）	演習
第3回		看護理論家の看護に対する考え方 （グループワーク）	演習
第4回		看護理論家の看護に対する考え方 （グループワーク）	発表
第5回	自分の考えに近い理論家を見つける	看護理論家のまとめ	講義
第6回	テキストの該当箇所を読んでおく	国際看護①	講義
第7回		国際看護②	講義
第8回 （45分）		終講試験	
テキスト 参考書	1．系統看護学講座　専門分野　基礎看護学①　看護学概論　　医学書院		
成績 評価方法	筆記試験　　（30点） グループ発表　他者評価　　（50点） 課題レポート　　（20点）		
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

令和4年4月

科目名	安全を守る技術	1単位　30時間　　履修時期　：　1年次　　前期・後期	
科目目標	1．対象の生命の安全を守る看護者としての責任について学ぶ。 2．対象の安全を守る方法を学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	手洗い動画の視聴	安全とは何か・手洗い	講義・校内実習
第2回	最近自分が犯したミスについて考えておく	ヒューマンエラーとは	講義・演習
第3回	医療事故、インシデントの用語ついて調べておく	医療事故の定義	講義
第4回	医療者の倫理とは何か考えておく	看護医療事故予防における看護倫理	講義
第5回	1～4回の講義の復習	組織としての事故防止対策：ヒヤリハット体験の分析、KYT、インシデントレポート	講義・演習
第6回	KYTの復習	実習における学生の安全	講義・演習
第7回	感染予防のために自分が何を行っているかまとめておく	感染予防	講義
第8回		感染予防対策の実際	講義
第9回	包帯法の動画を視聴しておく	創傷管理・包帯法	講義・演習
第10回	演習で行う技術の動画を視聴しておく	感染予防の実際	校内実習
第11回		滅菌操作の実際	校内実習
第12回		ゼミナール①	演習
第13回		ゼミナール②	演習
第14回		ゼミナール③	演習
第15回		まとめ　終講試験	
テキスト 参考書	1．系統看護学講座　統合分野　看護の統合と実践②　医療安全　医学書院 2．系統看護学講座　専門分野　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ　医学書院 3．系統看護学講座　専門分野　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　医学書院 4．看護技術プラクティス　第4版　学研		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

令和4年4月

科目名	生活援助技術Ⅰ 活動・休息	1単位　4時間　　履修時期　：　1年次　　前期	
科目目標	1．人間にとっての活動・休息の意義を学ぶ。 2．活動・休息における看護の役割と援助方法について学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	自分が毎日行っていることを書き出してみる	活動について	講義
第2回	どんな時睡眠や休息を取っているか書き出してみる	睡眠と休息について	講義
第3回		まとめ　　終講試験	
テキスト 参考書	1．系統看護学講座　専門分野　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　　医学書院 2．看護技術プラクティス　第4版　　学研		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

令和4年4月

科目名	生活援助技術Ⅰ 体位・移動	1単位　10時間　　履修時期　：　1年次　　前期	
科目目標	1．姿勢と体位を整える意義とボディメカニクスの原理を学ぶ。 2．姿勢と体位を整える看護の役割と援助方法を学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	臥床体験レポート	姿勢と体位	講義・演習
第2回	前回の授業の復習	安楽な体位の保持・自然な動きの分析	校内実習
第3回	車椅子・ストレッチャーの使用方法を読んでおく	体位変換・移動・移乗	講義・演習
第4回	体位変換の動画を視聴しておく	体位変換・移動・移乗の実際	校内実習
第5回			
第6回		まとめ　　終講試験	
テキスト 参考書	1．系統看護学講座　専門分野　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　　医学書院 2．完全版　ベッドサイドを科学する　改訂第3版　－看護に活かす物理学－ 3．看護技術プラクティス　第4版　　学研		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

令和4年4月

科目名	生活援助技術Ⅰ 環境	1単位　14時間　　履修時期　：　1年次　　前期・後期	
科目目標	1．生活環境が健康に及ぼす影響とその人らしい健康な生活環境を整える意義を学ぶ。 2．環境を整える看護の役割と援助方法を学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	「看護覚書」「看護の基本となるもの」	健康と環境と看護の関連性	講義
第2回	入院患者の環境と整備について予習	入院患者の環境調整	講義
第3回		入院患者の生活環境とその整備	講義
第4回	クローズドベッドについて予習	ベッドメーキングⅠ （チェックポイント、クローズドベッドの作成）	校内実習
第5回		ベッドメーキングⅠ （チェックポイント、クローズドベッドの作成）	校内実習
第6回	臥床患者のシーツ交換について予習	ベッドメーキングⅡ（臥床患者のシーツ交換）	校内実習
第7回	環境整備と一人でのシーツ交換を予習	ベッドメーキングⅢ （環境整備と1人でのシーツ交換）	校内実習
第8回		まとめ　終講試験	
テキスト 参考書	1．系統看護学講座　専門分野　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　医学書院 2．看護技術プラクティス　第4版　学研 3．看護覚え書き　現代社 4．看護の基本となるもの　日本看護協会出版会		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

令和4年4月

科目名	生活援助技術Ⅱ 食事・排泄	1単位　10時間　　履修時期　：　1年次　　前期	
科目目標	1．人間にとっての食事・排泄の意義を学ぶ。 2．自分で食事・排泄行動ができない人に対する看護の役割と援助方法を学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	形態機能学、消化器系、栄養学を復習	食事の意義とメカニズム　食生活の援助に関する基礎知識　　食事援助の基本	講義
第2回	摂食・嚥下能力のメカニズム予習（動画）	食事・栄養に関する援助の方法 ①経口栄養法　②嚥下訓練	講義
第3回	形態機能学、消化器系を復習	排泄の意義とメカニズム	講義
第4回	形態機能学、消化器系を復習	排泄の援助に関する基礎知識	講義
第5回	3～4回の講義内容を復習　衣生活・清潔、体位・移動を復習	排泄援助の実際	校内実習
第6回		まとめ　　終講試験	
テキスト 参考書	1．系統看護学講座　専門分野　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　　医学書院 2．看護技術プラクティス　第4版　　学研		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

令和4年4月

科目名	生活援助技術Ⅱ 清潔・衣生活	1単位　18時間　　履修時期　：　1年次　　前期・後期	
科目目標	1．人間にとって衣生活・清潔を充足する意義を学ぶ。 2．衣生活・清潔における看護の役割と援助方法を学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	自分にとっての衣服について考える	衣生活の意義・寝衣交換の体験	講義・体験
第2回	プラクティス 寝衣交換の技術確認	寝衣交換の実際	校内実習
第3回	自分にとっての清潔について考える	清潔の意義 清潔援助と身体への影響　口腔の清潔	講義
第4回	プラクティス 全身清拭の技術確認	清拭の実際	校内実習
第5回		清拭の実際	校内実習
第6回	プラクティス 陰部洗浄の技術確認	陰部の清潔	講義・校内実習
第7回	第4．5回講義の復習	事例を使った清拭の実際	講義
第8回	プラクティス 洗髪の技術確認	頭皮の清潔・整容の意義	校内実習
第9回		洗髪の実際	校内実習
第10回		まとめ　終講試験	
テキスト 参考書	1．系統看護学講座　専門分野　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　　医学書院 2．看護技術プラクティス　第4版　　学研		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

令和4年4月

科目名	診療の補助技術Ⅰ 浣腸・導尿	1単位　14時間　　履修時期　：　1年次　　後期	
科目目標	1．自然な排泄ができないときの排泄援助の必要性を学ぶ。 2．浣腸・導尿における看護の役割と援助方法を学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	「食事・排泄」の復習	浣腸の種類と適応、浣腸の方法	講義
第2回	プラクティスの浣腸を復習	浣腸の実際	校内実習
第3回	「食事・排泄」の復習	導尿の種類と適応、導尿の方法	講義
第4回	安全を守る技術、無菌操作を復習	一時的導尿の実際	校内実習
第5回		一時的導尿の実際	校内実習
第6回	4・5回を復習	持続的導尿の実際	校内実習
第7回		持続的導尿の実際	校内実習
第8回		まとめ　終講試験	
テキスト 参考書	1．系統看護学講座　専門分野　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　　医学書院 2．看護技術プラクティス　第4版　　学研		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

令和4年4月

科目名	診療の補助技術Ⅰ 吸入・吸引・洗浄	1単位　14時間　　履修時期　：　1年次　　後期	
科目目標	1．吸引・吸入・洗浄の目的・原理を学ぶ。 2．安全で効果的な吸引・吸入・洗浄を行うための看護の役割と援助方法を学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	形態機能学復習 特に呼吸器系は必須 ベッドサイドを科学する該当箇所を予習	吸入の原理と概要	講義
第2回		酸素吸入の原理と概要	講義
第3回		吸引の原理と概要	講義
第4回		排痰ケアの原理と概要	講義
第5回		洗浄の原理と概要	講義
第6回	講義1～4回を復習 「安全を守る技術」無菌操作復習	吸入・吸引の実際	校内実習
第7回		吸入・吸引の実際	校内実習
第8回		まとめ　終講試験	
テキスト 参考書	1．系統看護学講座　専門分野　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　　医学書院 2．看護技術プラクティス　第4版　　学研 3．完全版　ベッドサイドを科学する　改訂第3版　－看護に活かす物理学－　　学研		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

令和4年4月

科目名	診療の補助技術Ⅱ 検査	1単位　10時間　　履修時期　：　1年次　　後期	
科目目標	1．検査が患者にとって不安、不快、苦痛を伴うものであることを理解し、検査の意義を学ぶ。 2．検査における看護の役割と援助方法を学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	「臨床検査」「臨床放射線医学」を復習	検査の意義・種類と方法 生体検査の概要と看護	講義
第2回	尿検査と正常値その検査方法を予習	検体検査：尿検査の方法と実際	講義・校内実習
第3回	血液検査とその方法を予習	検体検査：血液検査の方法	講義
第4回	形態機能学、静脈血採血方法を予習	静脈血採血の実際	校内実習
第5回		静脈血採血の実際	校内実習
第6回		まとめ　　終講試験	
テキスト 参考書	1．系統看護学講座　専門分野　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　　医学書院 2．看護技術プラクティス　第4版　　学研 3．ケアに活かす検査値ガイド　第2版　　照林社		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

令和4年4月

科目名	診療の補助技術Ⅱ 与薬	1単位　18時間　　履修時期　：　1年次　　後期	
科目目標	1．医療安全を認識した上で与薬時の看護師の法的責任を学ぶ。 2．与薬における看護の役割と援助方法を学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	薬理学で学んだことを復習しておく	与薬の意義、原則、看護師の役割と法的責任、薬物の体内動態	講義
第2回		経口与薬法、外用薬与薬法	講義
第3回		直腸内与薬方法、経口薬準備、薬剤の計算	講義・校内実習
第4回	展示スペースにある注射の物品を見ておく	注射法の種類と留意点	講義
第5回		注射法の種類と留意点	講義
第6回	プラクティス 該当の技術の動画を見ておく	注射器の取り扱い・アンプル薬品の準備の実際	校内実習
第7回		バイアル薬品の準備、点滴静脈注射法の固定	校内実習
第8回		注射法の実際①　皮下注射	校内実習
第9回		注射法の実際②　筋肉内注射	校内実習
第10回		まとめ　　終講試験	
テキスト 参考書	1．系統看護学講座　専門分野　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　　医学書院 2．看護技術プラクティス　第4版　　学研		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

令和4年4月

科目名	臨床につなぐ技術Ⅰ 周手術期	1単位　18時間　　履修時期　：　1年次　後期	
科目目標	1．人間が手術侵襲を受けたときの生体反応のメカニズムについて学ぶ。 2．周手術期患者の全身管理・集中治療を受ける患者・家族の支援に必要な看護の役割と援助方法を学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	テキストを読み手術に対する関心を深める	周手術期看護とは	講義
第2回	テキストの該当箇所を事前に学習しておく 形態機能学について復習してくる	術前期看護	講義
第3回		術中期看護①	講義
第4回	治療学の復習をしてくる	術中期看護②　麻酔看護	講義
第5回	＊これまで学習した内容を復習しておく ＊治療学・形態機能学を復習しておく	術中期看護③　直接介助看護・間接介助看護	講義
第6回		術後期看護①　抜管後の看護・術後ベッド	講義・演習
第7回	身体侵襲について復習し、MOOREの回復過程を予習しておく ＊術後合併症について調べる	術後期看護②　身体侵襲とは	講義
第8回		術後期看護③　術後合併症の予防と看護	講義 グループワーク
第9回	テキストの該当箇所を事前に学習しておく	術後期看護④　集中治療室 ・集中治療における看護	講義
第10回		まとめ　終講試験	
テキスト 参考書	1．系統看護学講座　専門分野　基礎看護学④　臨床看護総論　医学書院 2．よくわかる周手術期看護　学研 3．高齢者と成人の周手術期看護2　術中／術後の生体反応と急性期看護　第3版　医歯薬出版株式会社 4．看護技術プラクティス　第4版　学研		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

令和4年4月

科目名	臨床につなぐ技術Ⅰ ME機器	1単位　10時間　　履修時期　：　1年次　　後期	
科目目標	1．看護活動で使用されるME機器の原理と構造を学ぶ。 2．安全に効果的に使用するための看護の役割と援助方法を学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	テキストの該当箇所を読んでおく	ME機器の安全使用	講義
第2回		測定用ME機器：心電図モニター・心電図計 パルスオキシメーター	講義
第3回		治療用ME機器：ペースメーカー・医療用ガスアウトレット 人工呼吸器・除細動器	講義
第4回		治療用ME機器：輸液ポンプ・シリンジポンプ	講義
第5回	2～4回の講義内容を復習しておく	人工呼吸器・心電図計・輸液ポンプ・シリンジポンプ使用の実際	校内実習
第6回		まとめ　　終講試験	
テキスト 参考書	1．系統看護学講座　専門分野　基礎看護学④　臨床看護総論　　医学書院 2．看護技術プラクティス　第4版　　学研		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

令和4年4月

科目名	臨床につなぐ技術Ⅱ 安静・食事療法	1単位　4時間　　履修時期　：　1年次　　後期	
科目目標	1．安静療法の目的と効果について理解し、安静療法を受ける患者・家族の支援に必要な看護の役割と援助方法を学ぶ。 2．食事療法の目的と患者への影響を理解し、食事療法を受ける患者・家族に必要な看護の役割と援助方法を学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	「活動・休息」を復習	安静療法の目的と人体に与える影響 安静療法を受ける患者の看護	講義
第2回	「食事」を復習	食事療法の目的と影響、食事療法を受ける患者の看護	講義
第3回		まとめ　　終講試験	
テキスト 参考書	1．系統看護学講座　専門分野　基礎看護学④　臨床看護総論　　医学書院 2．看護技術プラクティス　第4版　　学研		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

令和4年4月

科目名	臨床につなぐ技術Ⅱ 輸液・輸血療法	1単位　4時間　　履修時期　：　1年次　　後期	
科目目標	1．輸液・輸血療法の目的と基礎的な知識について学ぶ。 2．輸液・輸血療法を受ける患者・家族の支援に必要な看護の役割と援助方法を学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	テキストを読み、輸液・輸血療法に対する関心を深める	輸液療法の特徴　輸液療法中の看護援助	講義
第2回		輸血療法の基礎　輸血療法中の看護援助	講義
第3回		まとめ　　終講試験	
テキスト 参考書	1．系統看護学講座　専門分野　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　医学書院 2．系統看護学講座　専門分野　基礎看護学④　臨床看護総論　　医学書院 3．看護技術プラクティス　第4版　　学研		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

令和4年4月

科目名	臨床につなぐ技術Ⅱ 救急法	1単位　6時間　　履修時期　：　1年次　　後期	
科目目標	1．救急状況にある患者・家族の身体・心理状態を理解し、看護の役割を学ぶ。 2．生命を救うための状態把握の方法、基本的な救急処置方法を学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	プラクティス P303　JRC蘇生ガイドラインを確認しておく	救急状況にある患者の特徴と看護	講義
第2回		基本的救急処置　（一次救命処置）	校内実習
第3回		基本的救急処置　（一次救命処置）	校内実習
第4回		まとめ　　終講試験	
テキスト 参考書	1．系統看護学講座　専門分野　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　　医学書院 2．系統看護学講座　専門分野　基礎看護学④　臨床看護総論　　医学書院 3．看護技術プラクティス　第4版　　学研		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

令和4年4月

科目名	看護過程	1単位　30時間　　履修時期　：　1年次　　後期	
科目目標	看護を科学的に思考し、看護実践につなげるための思考過程を学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	ワークシートを実施してくる	看護過程とは アセスメント　1）情報収集	講義
第2回	課題を実施してくる	アセスメント　2）情報の分類 3）情報の分析・判断	講義・演習
第3回		看護上の問題抽出・関連図	講義・演習
第4回		看護計画立案	講義・演習
第5回		実施・評価、記録と報告	講義・演習
第6回	事例Ⅰを実施する	事例展開Ⅰ	演習
第7回		事例展開Ⅰ	演習
第8回	担当教員と調整し課題を実施する	事例展開Ⅱ	演習
第9回		事例展開Ⅱ	演習
第10回		事例展開Ⅱ	演習
第11回		事例展開Ⅱ	演習
第12回		事例展開Ⅱ	演習
第13回		事例展開Ⅱ	演習
第14回		事例展開Ⅱ	演習
第15回		まとめ　　終講試験	
テキスト 参考書	1．系統看護学講座　専門分野　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ　医学書院 2．看護過程に沿った対症看護　第5版　－病態生理と看護のポイント－　学研 3．症状別看護過程の展開　第6版　学研		
成績 評価方法	筆記試験　　（50点） 事例展開の演習点　（50点）		
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

令和4年4月

科目名	看護研究	1単位　30時間　　履修時期　：　2年次　　前期・後期	
科目目標	1．看護領域における研究の概要について学び、研究への関心と理解を深め、実践の学問としての看護を科学的に探求する重要性を学ぶ。 2．学習の中で関心を持った一連の過程を研究の視点でまとめることにより、研究手法の理解を深める。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	自分の興味のあることを1つ以上考えてくる	看護研究の意義と目的 研究に伴う倫理	講義
第2回	第10章を読んでくる	看護研究のプロセス　研究課題の探索	講義・演習
第3回	医中誌デモ版で1回検索してくる	文献検索の意義と方法　文献検索の実際	講義・演習
第4回	第5章を読んでくる	研究の種類　ケース・スタディ	講義
第5回	「情報と統計」復習	データ収集　データ分析　結果の整理と考察	講義
第6回	クリティーク課題を行う	研究論文のクリティーク　クリティークの実際	講義・演習
第7回	第8・9章を読んでくる	研究計画書の意義　研究計画書の書き方	講義・演習
第8回	1～7回の講義を復習する	パイロット・スタディ	演習
第9回		パイロット・スタディ	演習
第10回		パイロット・スタディ	演習
第11回		パイロット・スタディ	演習
第12回		パイロット・スタディ	演習
第13回		パイロット・スタディ	演習
第14回		パイロット・スタディ	演習
第15回		まとめ　　終講試験	
テキスト 参考書	1．系統看護学講座　別巻　看護研究　医学書院		
成績 評価方法	筆記試験　　（60点） パイロットスタディ（40点）		
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

地域・在宅看護論　　8単位 （210時間）

目的 ： 地域で暮らす人々やその家族の特徴を理解し、その人らしく生きるための健康や暮らしを継続的に支援する看護を学ぶ。

授業科目名	単位数	時間数	目 的
地域・在宅看護概論	1	15	地域・在宅看護の概念と地域で暮らしている対象とその家族の特徴を学ぶ。
暮らしを支える看護Ⅰ	1	15	暮らしに必要な法と制度を理解し、地域の特徴と暮らし,環境を学ぶ。
暮らしを支える看護Ⅱ	1	15	地域で看護が提供される多様な場を理解し、地域に出向き、暮らしと健康課題の実際を学ぶ。
在宅療養を支える看護Ⅰ	1	30	地域包括ケアシステムについて理解し、療養者の病期に応じた看護や連携・調整方法を学ぶ。
在宅療養を支える看護Ⅱ	1	30	地域で療養する対象に対する援助の基本、在宅援助の知識と技術を学ぶ。
在宅療養を支える看護Ⅲ	1	15	地域で療養生活を送る人とその家族のアセスメントの特徴を理解し看護に活用できる方法を学ぶ。
小 計	6	120	
地域・在宅看護論実習	2	90	地域で暮らしながら療養する人とその家族を理解し、対象に応じた看護を実践する能力を身につける。
小 計	2	90	
総　　計	8	210	

令和4年4月

科目名	地域・在宅看護概論	1単位　15時間	履修時期　：　1年次　後期
科目目標	1．社会背景と地域・在宅看護の変遷について学ぶ。 2．地域の中で暮らす生活者の特徴を学ぶ。 3．地域で暮らす意義について学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	シラバスの確認 地域・在宅の概念・変遷・意義について予習	地域・在宅看護の概念	講義
第2回		地域・在宅看護の変遷	講義
第3回		地域・在宅看護の意義	講義
第4回	看護の対象について復習	地域・在宅看護の対象と特徴①	講義
第5回		地域・在宅看護の対象と特徴②	講義
第6回	自分にとっての家族・周囲の人々の存在について考える	地域・在宅看護の対象と家族	講義
第7回		地域・在宅看護の対象と周囲の人々	講義
第8回 （45分）		終講試験	
テキスト 参考書	1．系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論　医学書院		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

令和4年4月

科目名	暮らしを支える看護Ⅰ	1単位　15時間	履修時期　：　1年次　　後期
科目目標	1．地域で生活するために必要な法と制度について学ぶ。 2．地域の中で暮らす生活者とその環境について学ぶ。 3．支え合って暮らす大切さを学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	暮らしに必要な法律について調べる	暮らすための法と制度	講義
第2回		暮らしを支える仕組み	講義
第3回	自助・互助・共助・公助について調べる	暮らしを支える自助・互助・共助・公助	講義
第4回	自分の周囲の環境について調べる	暮らすということ	講義
第5回		健康を守り育む環境	講義
第6回		暮らしが健康に与える影響	講義
第7回		支えあって生きるとは	講義
第8回 （45分）		終講試験	
テキスト 参考書	1．系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論　医学書院		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

令和4年4月

科目名	暮らしを支える看護Ⅱ	1単位　15時間　　履修時期　：　1年次　後期	
科目目標	1．暮らしの中にある看護の視点を学ぶ。 2．看護が提供される多様な場と看護の役割、機能について学ぶ。 3．生活者を取り巻く環境・暮らしを学び、健康課題について考えることができる。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	人が生活する場について調べる	多様な場にある看護の視点	講義
第2回		多様な場で行われる看護の役割と機能	講義
第3回	礼節と感性の復習 コミュニケーション技術の復習 丹波市の概要について復習	地域視診とは　演習オリエンテーション	講義・準備
第4回		地域視診演習	見学・ インタビュー
第5回		地域視診演習	見学・ インタビュー
第6回		地域視診演習	グループワーク
第7回 （45分）		地域視診演習	グループワーク
第8回		地域視診演習	発表
テキスト 参考書	1．系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論　　医学書院 2．丹波市市勢概要		
成績 評価方法	グループワーク他者評価　（30点） レポート　　（70点）		
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

令和4年4月

科目名	在宅療養を支える看護Ⅰ	1単位 30時間	履修時期 ： 2年次 前期・後期
科目目標	1．地域包括ケアシステムにおける多職種との連携・調整方法を学ぶ。 2．在宅看護におけるセーフティーマネジメントの基礎知識を学ぶ。 3．エコマップを作成することにより、多職種との関係性や経済性を学ぶ。 4．状態（状況）別療養者と家族に必要な看護を学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	医療・福祉に関わる多職種について復習 地域包括ケアシステム5つの構成要素について調べる	地域包括ケアシステムにおける看護の役割	講義
第2回		入退院支援（PFM） 地域連携室	講義
第3回		訪問看護 訪問看護管理	講義
第4回		ケアマネジメントとは	講義
第5回		ケアマネジャーとは	講義
第6回		ケアマネジメントの過程	講義
第7回		ケアマネジメントの実際	講義
第8回		社会資源活用技術	講義
第9回		多職種と連携 エコマップの作成	演習
第10回		多職種と連携 エコマップの作成	演習
第11回	健康状態について復習 心不全について復習	在宅療養者の健康状態別看護 ：慢性期	講義
第12回		在宅療養者のその人らしい生活を考える	演習
第13回		在宅療養者の健康状態別看護 ：急性増悪期	講義
第14回		在宅療養者の健康状態別看護 ：終末期	講義
第15回		まとめ 終講試験	
テキスト 参考書	1．系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 医学書院（電子版） 2．看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術 第3版 メジカルフレンド社		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	看護師・ケアマネージャー 他

令和4年4月

科目名	在宅療養を支える看護Ⅱ	1単位 30時間	履修時期 ： 2年次 後期
科目目標	1. 在宅看護における援助関係の基本、訪問マナーを学ぶ。 2. 在宅看護の基本技術、援助技術、在宅医療技術の方法を学ぶ。 3. 福祉用具、住宅改修の知識を学ぶ。 4. 社会資源の活用方法と看護師の役割を学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	礼節と感性について復習	在宅看護における援助の関係	講義
第2回	福祉用具の種類について調べる	福祉用具の選定 使用の実際	講義・演習 （研修）
第3回		福祉用具の選定 使用の実際	講義・演習 （研修）
第4回	看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術 第3版 メジカルフレンド社 日常生活援助技術を読む	基本技術・援助技術の工夫	講義
第5回		在宅での生活援助技術ののの工夫①	演習
第6回		在宅での生活援助技術ののの工夫②	演習
第7回		在宅での生活援助技術ののの工夫③	演習
第8回	看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術 第3版 メジカルフレンド社 処置に伴う援助技術を読む	在宅酸素療法（HOT） 在宅人工呼吸療法（HMV NIPPV）	講義
第9回		在宅経管栄養法（HEN PEG） 在宅中心静脈栄養（HPN）	講義
第10回	処置に伴う援助技術について復習	在宅医療技術①	校内実習
第11回		在宅医療技術②	校内実習
第12回	難病について調べる	在宅で難病のある人（児）へのケア 症状・治療・検査	講義
第13回		在宅で難病のある人（児）へのケア 看護	講義
第14回	褥瘡について復習	在宅医療技術 褥瘡	講義
第15回		まとめ 終講試験	
テキスト 参考書	1. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 医学書院 2. 看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術 第3版 メジカルフレンド社		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	看護師・専任教員

令和4年4月

科目名	在宅療養を支える看護Ⅲ	1単位　15時間	履修時期 ： 3年次　前期
科目目標	1．事例演習を通して、在宅療養者と家族に対する看護の展開方法を学ぶ。 1）在宅療養者と家族の健康上・療養上の問題を明らかにできる。 2）問題を解決するための、援助計画が立案できる。 3）援助計画に基づいて、訪問看護が実践できる。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	基礎看護学看護過程の復習	在宅看護での看護過程の特徴	講義
第2回		事例アセスメント（個人ワーク）	演習
第3回		看護計画（個人ワーク）	演習
第4回	社会資源の活用講義の復習	エコﾏｯﾌﾟ（個人ワーク）	演習
第5回	看護過程個人ワークの整理	看護計画立案①（グループワーク）	演習
第6回		看護計画立案②（グループワーク）	演習
第7回	発表準備	グループワーク発表・評価	発表
第8回 （45分）		まとめ	
テキスト 参考書	1．系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論　医学書院 2．看護実践のための根拠がわかる　在宅看護技術　第3版　メジカルフレンド社 3．疾患別看護過程　第6版　学研		
成績 評価方法	アセスメント内容　（40点） 看護計画　（20点） エコマップ　（20点） グループ発表　（20点）		
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

成人看護学　　13単位　（450時間）

目的 ： 社会において生活を営み人生を紡ぐ成人を理解し、自立した存在として生活できるよう健康レベルや状態に応じた看護の方法を学ぶ。

授業科目名	単位数	時間数	目　的
成人看護学概論	1	15	成人看護の概念と成人各期の特徴を理解し、成人看護の機能と役割を学ぶ。
成人看護学方法Ⅰ（健康生活支援）	1	30	成人保健の意義と成人期における健康の保持増進・健康問題を理解し、保健活動の必要性と健康問題を解決するための対策を学ぶ。
成人看護学方法Ⅱ（クリティカルケア）	1	15	成人期の急性過程にある対象を理解し、クリティカルケアの特性と援助方法を学ぶ。
成人看護学方法Ⅲ（周術期ケア）	1	30	成人期の周術期にある対象を理解し、合併症予防と早期回復の援助方法を学ぶ。
成人看護学方法Ⅳ（セルフケア）	1	30	成人期の回復過程にある対象を理解し、セルフケアの特性と援助方法を学ぶ。
成人看護学方法Ⅴ（セルフマネジメント）	1	30	成人期の慢性期にある対象を理解し、セルフマネジメントの援助方法を学ぶ。
成人看護学方法Ⅵ（ターミナルケア）	1	30	がんを取り巻く状況を理解し、エビデンスに基づく援助方法を学ぶ。
小　計	7	180	
成人・老年看護学実習Ⅱ	2	90	急性期にある対象を理解し、回復力を最大限に引き出す看護を学ぶ。
成人・老年看護学実習Ⅳ	2	90	死を免れない患者の特徴を理解し、その人らしい生を全うする支援の実際を学ぶ。
成人・老年看護学実習Ⅴ（テーマ探究実習）	2	90	テーマに沿ったフィールドにおいて実践をとおして看護への探求を学ぶ。
小　計	6	270	
総　計	13	450	

科目名	成人看護学概論	1単位 15時間 履修時期 : 1年次 後期	
科目目標	1. 成人看護の対象と特性を学ぶ。 2. ライフサイクルからみた成人期の特徴を理解し、成人の役割を学ぶ。 3. 成人の生活を理解し、成人看護が担うべき機能と役割について学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	成人各期の特徴をテキストからまとめる	成人看護の対象 1)ライフサイクルからみた成人期	講義・演習
第2回		2)成人各期の区分と名称	講義
第3回		成人看護の機能と役割 1)成人各期の区分と分類根拠 2)成人期の発達課題	講義
第4回	深めたい各期を選択し理由をレポート	成人各期の身体的・精神的・社会的理解 1)青年期の特徴	講義・発見学習
第5回		2)壮年期の特徴	講義・発見学習
第6回		3)向老期の特徴	講義・発見学習
第7回	生活の意味と範囲を調べる	成人と生活 1)現代の生活状況 2)職業を持つ意味・成人期の再考	講義
第8回 (45分)		終講試験	
テキスト 参考書	1. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学1 成人看護学総論 医学書院 2. 国民衛生の動向		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

科目名	成人看護学方法Ⅰ （健康生活支援）	1単位　30時間　　履修時期　：　1年次　　後期	
科目目標	1．成人保健の意義と動向を学ぶ。 2．成人の健康問題を理解し健康の保持・増進・疾病予防について学ぶ。 3．成人保健活動の場と特徴を知り、健康問題を解決するための対策と各活動における看護の役割を学ぶ。 4．成人期である自分自身の発達や生活習慣に関する振り返りができる。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	国民衛生の動向2-1 人口静態を読む	成人保健の意義・動向 1）成人保健の目的　2）成人人口の動向	講義
第2回		3）死亡と死因　4）疾病構造と受療の動向	講義
第3回		生活習慣病の動向 1）がん　2）循環器疾患　3）糖尿病	講義
第4回	市民へインタビュー したい内容抽出	成人の生活と健康	講義
第5回		1）成人各期における健康問題の把握	検診センターへ インタビュー
第6回	自己の健康を守るために気をつけている行動を1つ挙げ、その行動の内容と理解を提出	成人各期における健康問題を考える	演習
第7回		1）生活習慣に関する健康問題：ジグソー学習①	演習
第8回		2）生活習慣に関する健康問題：ジグソー学習②	演習
第9回		3）生活習慣に関する健康問題：ジグソー学習③	演習・講義
第10回	企業ごとの予測される健康問題を抽出	成人の生活と健康を守り育むシステム 1）労働と健康問題	講義
第11回		2）労働者の保健活動・健康管理の実際①	講義
第12回		3）労働者の保健活動・健康管理の実際②	企業見学
第13回	国民衛生の動向 3－3－3を読む	成人の健康問題を育む支援の目的 1）ヘルスプロモーション　2）環境づくり	演習
第14回		成人保健における 感染症対策：結核・性感染症、ストレス	講義
第15回		まとめ　終講試験	
テキスト 参考書	1．系統看護学講座　専門分野　成人看護学1　成人看護学総論　医学書院 2．系統看護学講座　専門分野　基礎看護学④　臨床看護総論　医学書院 3．国民衛生の動向		
成績 評価方法	筆記試験　（80点） 演習点　（20点）		
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

令和4年4月

科目名	成人看護学方法Ⅱ （クリティカルケア）	1単位　15時間　　履修時期　：　2年次　　前期	
科目目標	1．急性過程にあり、危機的状況にある対象の心理やニーズ及びその家族の課題を学ぶ。 2．急性過程にある患者の合併症予防の必要性とモニタリング技術を学ぶ。 3．クリティカル看護の特性を学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	急性期の特徴と看護	主要概念 1）クリティカルケアの概念、定義、役割 2）モニタリングと臨床診断	講義
第2回	フィンク危機理論	心理的危機への援助 1）危機プロセスと危機介入 2）危機的状況における心理的アプローチ	講義・演習
第3回	病態生理学：循環器の講義内容を復習	モニタリング 1）循環障害	講義
第4回		2）呼吸障害	講義
第5回	症候学：ショック・不整脈・呼吸困難	生命の安全を守る援助 1）症状からの苦痛の緩和	講義
第6回	ペースメーカー・AED・人工呼吸器	2）合併症予防 3）安全への配慮	講義
第7回	心臓カテーテル検査	4）治療・処置・検査の看護	講義
第8回 （45分）		終講試験	
テキスト 参考書	1．系統看護学講座　専門分野　成人看護学1　成人看護学総論　医学書院 2．系統看護学講座　専門分野　成人看護学3　循環器　医学書院 3．看護過程に沿った対症看護　第5版　−病態整理と看護のポイント− 4．疾患別看護過程の展開　第6版　学研 5．看護技術プラクティス　第4版		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	看護師・専任教員

令和4年4月

科目名	成人看護学方法Ⅲ （周術期ケア）	1単位　30時間　　履修時期　：　2年次　　後期	
科目目標	1．周術期にある対象の心理やニーズ及びその家族の課題を学ぶ。 2．苦痛を伴う治療や疼痛の影響を理解し、コントロールやコーピングの方法を学ぶ。 3．合併症予防と早期回復の援助方法を学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	疾病理解の思考： 消化器症状復習	主な症状・検査時の看護 1）嘔気・嘔吐時の看護　2）術前検査と看護	講義
第2回	胃十二指腸検査の 看護	苦痛を伴う治療を受ける患者の看護 1）ストレス・コーピング	講義
第3回	診療の補助技術： 手術療法	2）コーピング強化のための援助	講義
第4回	胃がん看護過程	（1）不安の緩和 （2）予期的指導・情報提供の目的	講義
第5回		（3）指導・情報提供　（4）術前処置	演習・演習
第6回		（5）指導・情報提供の実際　（6）術前処置の実際	講義・演習
第7回		疼痛コントロール 1）術後疼痛がもたらす弊害	講義
第8回		2）援助の実際 （1）疼痛アセスメント　（2）薬剤による援助	講義
第9回	mooreの生体反応 を復習	合併症予防と早期回復のための看護 1）合併症を予測した予防的看護	講義・演習
第10回		1）合併症を予測した予防的看護の実際 2）早期回復促進のための援助	講義・演習
第11回	吸引・吸入・洗浄	（1）酸素化の促進　　（2）栄養管理	講義
第12回	輸液療法	（3）体液バランスの管理　（4）感染予防 3）ボディイメージの受容の援助	講義
第13回		外科的ケア 1）ストーマケア	講義
第14回		2）胸腔・腹腔ドレーンの管理	講義
第15回		まとめ　終講試験	
テキスト 参考書	1．系統看護学講座　専門分野　成人看護学1　成人看護学総論　医学書院 2．系統看護学講座　専門分野　成人看護学5　消化器　医学書院 3．高齢者と成人の周手術期看護2　術中/術後の生体反応と急性期看護　第3版　医歯薬出版株式会社 4．よくわかる周術期看護　学研 5．看護過程に沿った対症看護　第5版　−病態整理と看護のポイント−　学研 6．疾患別看護過程の展開　第6版　学研 7．看護技術プラクティス　第4版　学研		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	看護師

令和4年4月

科目名	成人看護学方法Ⅳ （セルフケア）	1単位　30時間　　履修時期　：　1年次　　後期	
科目目標	1．回復過程にあり、障害を持つ対象の心理やニーズ及びその家族の課題を学ぶ。 2．回復過程にある患者の再発予防・合併症の必要性と観察技術を学ぶ。 3．セルフケアの特性と援助方法を学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	回復期の特徴と看護を復習	主要概念　1）障害の概念と受容への援助 2）セルフケア・ADL	講義
第2回	フィジカルアセスメント：脳神経	モニタリング　1）意識障害の程度 2）運動障害の種類・程度	講義
第3回		モニタリング　3）言語障害の種類・程度 4）嚥下障害の種類・程度	講義
第4回	形態機能学：脳神経疾患を復習	再発予防　1）血圧のコントロール　2）生活指導	講義
第5回		合併症の予防　1）拘縮・筋力低下予防 2）誤嚥による肺炎予防 3）脱臼・転倒予防	講義
第6回	生活援助技術：活動・衣生活・食事を復習	セルフケア獲得への援助 1）ADL評価　2）活動の援助　3）食事・栄養の援助	講義
第7回		4）コミュニケーション 5）安全な環境、自助具・補助具の工夫	講義
第8回	継続看護	社会復帰への援助 1）地域へのサポート・社会資源の活用 2）退院調整活動	演習
第9・10回	治療学：理学療法の復習	リハビリテーションの実際 1）理学療法の目的・方法と連携・共働	講義・演習
第11・12回		2）作業療法の目的・方法と連携・共働	講義・演習
第13・14回		3）言語療法の目的・方法と連携・共働	講義・演習
第15回		まとめ　　終講試験	
テキスト 参考書	1．系統看護学講座　専門分野　成人看護学1　成人看護学総論　医学書院 2．系統看護学講座　専門分野　成人看護学7　脳・神経　医学書院 3．系統看護学講座　専門分野　基礎看護技術Ⅱ　医学書院 4．系統看護学講座　別巻　リハビリテーション看護　医学書院 5．看護過程に沿った対症看護　第5版　−病態整理と看護のポイント−　学研 6．疾患別看護過程の展開　第6版　学研 7．看護技術プラクティス　第4版　学研		
成績 評価方法	筆記試験　　（85点） 課題レポート　（15点）		
担当講師	実務経験がある講師	職種	看護師・専任教員

令和4年4月

科目名	成人看護学方法Ⅴ （セルフマネジメント）	1単位　30時間　　履修時期　：2年次　前期・後期	
科目目標	1．慢性過程にある対象の心理やニーズ及びその家族の課題を学ぶ。 2．疾病の理解と受容、セルフケアマネジメント確立のための意欲への働きかけの必要性を学ぶ。 3．疾病コントロールとセルフケアマネジメント獲得への援助方法を学ぶ。 4．成人期の自己決定の尊重について考える機会とする。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	慢性期の特徴と看護復習	慢性の病気をもつ成人の理解 1）疾病の受容過程　2）本人と病気の位置関係	講義
第2回		3）病みの軌跡 4）慢性の病気をもつ成人のコミュニケーション	講義
第3回		慢性の病気をもつ成人を援助するための概念 1）ケアリング	講義・演習
第4回		2）自己効力　3）エンパワーメント 4）セルフケア理論	講義
第5回	糖尿病事例 看護過程	疾病コントロールとセルフマネジメントを促す援助 1）食事療法と看護　2）運動療法と看護	講義・演習
第6回		3）薬物療法と看護　4）インスリン療法と看護	講義
第7回	事例の選択	5）支援技術の目的・方法・留意点・指導計画 6）支援技術の実際・評価	講義・演習
第8回	病態生理学: 内分泌復習	障害の拡大を予防するための援助 1）フットケア　2）セルフモニタリング	講義
第9回		3）3大合併症の予防　4）SMBG測定	講義・演習
第10回	使用テキスト1・14章を読む	患者の自己決定を支える意味 1）透析医療と移植のメリット・デメリット	講義・演習
第11回	臓器移植法の学習	2）腎移植の自己決定を自己の立場から考える	講義・演習
第12・13回		3）いのちの勉強会に参加	研修
第14回	社会と福祉制度	家族・グループ・ヘルスケアシステムとアプローチ	講義
第15回		まとめ　終講試験	
テキスト 参考書	1．系統看護学講座　専門分野　成人看護学1　成人看護学総論　医学書院 2．系統看護学講座　専門分野　成人看護学6　内分泌・代謝　医学書院 3．看護過程に沿った対症看護　第5版　－病態整理と看護のポイント－　学研 4．疾患別看護過程の展開　第6版　学研		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	看護師・専任教員

科目名	成人看護学方法Ⅵ （ターミナルケア）	1単位　30時間　　履修時期　：　2年次　　後期	
科目目標	1．がんを取り巻く状況及び治療について学ぶ。 2．エビデンスに基づく援助方法を学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	がん化学療法の目的	1．がん化学療法の看護①	講義
第2回		2．がん化学療法の看護②	講義・演習
第3回	がん放射線療法の目的	3．がん放射線療法の看護	講義
第4回	がん性疼痛の特徴	4．ペインコントロール①	講義
第5回		5．ペインコントロール②	講義・演習
第6回	がん患者におこる苦痛の予測	6．がん患者の苦痛に対するマネジメント①	講義
第7回		7．がん患者の苦痛に対するマネジメント②	講義
第8回	終末期の特徴と看護を復習	8．人生の最期の過程にある人の理解 1）全人的苦痛（totalpain）の理解とメカニズム	講義・演習
第9回		2）身体的苦痛：痛みの閾値に影響する因子 3）精神的苦痛：死の受容プロセス	講義
第10回	スピリチュアルペインのイメージ	4）スピリチュアルペインの理解と関連性	講義
第11回	自己のコミュニケーションの課題	9．告知の考え方と悪いニュースの伝え方①	講義・演習
第12回	緩和ケアの定義	10．緩和ケアとホスピス	講義
第13回	セデーションと告知の現状	11．ターミナルケアにおける倫理的課題	講義
第14回		12．臨死期の看護	講義
第15回		まとめ　　終講試験	
テキスト 参考書	1．系統看護学講座　専門分野　成人看護学1　成人看護学総論　医学書院 2．系統看護学講座　別巻　がん看護学　医学書院		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	看護師・専任教員

老年看護学　　9単位 （300時間）

目的 ： 人間的成熟、統合に向かって発達する老年期の人々の健康問題を理解し、
老化に伴う機能低下や健康問題を持つ個人とその家族に対して、生活史に
基づく人生観・価値観を尊重し、自立や生きがいを支援する看護方法を学ぶ。

授業科目名	単位数	時間数	目　的
老年看護学概論	1	30	老年看護の概念と老年期にある対象の特徴を理解し、老化や健康障害に応じた看護を行うための専門的知識・技術・態度を学ぶ。
老年看護学方法Ⅰ	1	15	老人保健・福祉の現状を把握し、健康を保持・増進するための保健・医療・福祉の動向と対策を学ぶ。
老年看護学方法Ⅱ	1	15	老化に伴う機能低下や健康障害を持つ対象の生活上の問題に応じた看護の方法を学ぶ。
老年看護学方法Ⅲ	1	30	老化に伴う機能低下や健康障害を持つ対象とその家族に対し、健康レベルや状況に応じた看護の方法を学ぶ。
老年看護学方法Ⅳ	1	30	高齢者の特徴を踏まえた、看護過程の展開方法を学ぶ。
小　計	5	120	
成人・老年看護学実習Ⅰ	2	90	地域で生活している健康な生活者の特徴と人生観・健康観・生活観を理解し、健康の保持・増進の実際を学ぶ。
成人・老年看護学実習Ⅲ	2	90	入院から退院支援まで地域の施設で治療を受ける患者の看護を学ぶ。
小　計	4	180	
総　　計	9	300	

令和4年4月

科目名	老年看護学概論	1単位 30時間 履修時期 : 1年次 後期	
科目目標	1. 老年期の発達課題を学ぶ。 2. 老化の特徴を身体的・精神的・社会的側面から学ぶ。 3. 高齢者のその人らしさを維持することの必要性を学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	自分の中の高齢者像を考えてくる	老年看護ガイダンス	講義 演習
第2回	教科書1 超高齢社会の現況を読む	老年看護の意義① 高齢社会の動向	講義 演習
第3回	教科書1 超高齢社会の現況を読む	老年看護の意義② 対象理解	講義 DVD
第4回	教科書1 身体の加齢変化とアセスメントを読む	高齢者の特徴を踏まえた、看護過程の展開方法を学ぶ	講義 DVD
第5回	教科書1 老いるということを読む	高齢者の身体変化	講義 DVD
第6回	日常生活をレポートする	地域で生活している健康な老年者の特徴と人生観・健康観・生活観を理解する	演習
第7回	街中で出会う高齢者の目線でさまざまな環境を観察する	老化体験	演習
第8回			
第9回	老化体験を振り返り、高齢者の日常生活を考えてくる	老化体験発表準備	演習
第10回		老化体験発表	発表
第11回	教科書1 高齢者の権利擁護を読む	高齢者の権利とｱﾄﾞﾎﾞｶｼｰ	講義 DVD
第12回	生きがいとは何か考えてくる	高齢者の生きがい	講義 DVD
第13回	教科書1 セクシュアリティを読む	高齢者の性	講義 DVD
第14回	教科書1 エンドオブライフケアA～Cまでを読む	老いと死	講義 DVD
第15回		まとめ 終講試験	
テキスト 参考書	1. 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 3. 国民衛生の動向		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

令和4年4月

科目名	老年看護学方法Ⅰ	1単位 15時間 履修時期 : 2年次 前期	
科目目標	1. 我が国の高齢化の現状と課題について学ぶ。 2. 高齢者を支える保健医療福祉システムについて学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	教科書1 第2章 超高齢社会と社会保障(超高齢社会の統計的輪郭)を読む	高齢社会の現状理解①	講義
第2回		高齢社会の現状理解②	講義
第3回	教科書1 第2章 超高齢社会と社会保障(高齢社会における保健医療福祉システムの構築)を読む	高齢者医療の動向 老人保健法の制定と変遷	講義
第4回		老人福祉法の制定と変遷 ゴールドプラン 新ゴールドプラン ゴールドプラン21 健康日本21	講義
第5回	教科書1 第2章(介護保険制度の整備)を読む	介護保険制度の創設経緯と概要	講義
第6回	教科書1 第2章(高齢者虐待)を読む	高齢者虐待 成年後見制度	講義
第7回	丹波市の高齢者を対象とする保健活動を調べる	高齢者の健康と保健活動(実際の活動を通して)	講義
第8回 (45分)		終講試験	
テキスト 参考書	1. 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 3. 国民衛生の動向		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	保健師・専任教員

令和4年4月

科目名	老年看護学方法Ⅱ	1単位 15時間 履修時期 : 2年次 前期	
科目目標	1. 我が国の高齢化の現状と課題について学ぶ。 2. 高齢者を支える保健医療福祉システムについて学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	老化の特徴復習	高齢者のヘルスアセスメントの視点	講義
第2回	教科書1 第5章食事・食生活を読む	高齢者の食事の アセスメントと看護ケア	講義
第3回	教科書1 第5章食事・食生活(口腔ケア)を読む	高齢者の口腔ケアの アセスメントと看護ケア	講義 演習
第4回	教科書1 第5章清潔を読む	高齢者の清潔の アセスメントと看護ケア	講義
第5回	教科書1 第5章排泄を読む	高齢者の排泄の アセスメントと看護ケア	講義 校内実習
第6階	教科書1 第5章生活リズムを読む	高齢者の活動・休息の アセスメントと看護ケア	講義
第7回	教科書1 第5章日常生活を支える基本的活動を読む	高齢者の日常生活と環境、転倒転落予防のアセスメントと看護ケア	講義
第8回 (45分)		終講試験	
テキスト 参考書	1. 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 3. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学15 歯・口腔 医学書院 4. カラー写真で学ぶ 高齢者の看護技術 医歯薬出版株式会社		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	看護師・専任教員

令和4年4月

科目名	老年看護学方法Ⅲ	1単位 30時間 履修時期 : 2年次 前期・後期	
科目目標	1. 我が国の高齢化の現状と課題について学ぶ。 2. 高齢者を支える保健医療福祉システムについて学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	教科書1 第6章症候のアセスメントと看護 脱水・浮腫	高齢者の 浮腫・脱水のアセスメントと看護ケア	講義
第2回	教科書1 第6章症候のアセスメントと看護 痛み・掻痒	高齢者の 疼痛・掻痒感のアセスメントと看護ケア	講義
第3回	教科書1 第8章エンドオブライフケア	高齢者の 終末期看護のアセスメントと看護ケア	講義
第4回	教科書1 第7章治療を必要とする高齢者の看護 手術を受ける患者の看護	外科的治療時のアセスメントと看護ケア	講義
第5回	教科書1 第7章治療を必要とする高齢者の看護 検査・薬物療法を受ける患者の看護	検査・薬物療法時の アセスメントと看護ケア	講義
第6回	教科書1 第6章症候のアセスメントと看護 せん妄・うつ	高齢者のうつ・せん妄の アセスメントと看護ケア	講義
第7回	教科書1 第5章高齢者の生活機能を整える看護 コミュニケーション	コミュニケーションと看護ケア	講義
第8回	教科書1 第6章症候のアセスメントと看護 認知症	認知症のある人の看護①	講義
第9回		認知症のある人の看護②	講義
第10回		認知症のある人の看護③	講義
第11回		認知症のある人の看護④	講義
第12回		認知症のある人の看護⑤	講義
第13回	教科書1第9章 治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護	高齢者の家族看護・エンパワーメントの アセスメントと看護ケア	講義
第14回	教科書1第9章 保健医療福祉施設および居住施設における看護	老年看護の場と役割と機能	演習
第15回		まとめ 終講試験	
テキスト 参考書	1. 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 3. カラー写真で学ぶ 高齢者の看護技術 医歯薬出版株式会社		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	看護師・専任教員

科目名	老年看護学方法Ⅳ	1単位 30時間　履修時期 ： 2年次　後期	
科目目標	高齢者の退院後の生活を考慮しながら、入院中の高齢患者の事例展開の方法について学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	基礎看護 看護過程 教科書1 看護過程の展開	看護過程展開の考え方　事例紹介	講義
第2回	事例に沿って必要な学習 老化の特徴 解剖・病体生理 薬物 等 復習	事例展開　個人ワーク ①	演習
第3回		事例展開　個人ワーク ②	演習
第4回		事例展開　個人ワーク ③	演習
第5回	グループワークが効果的に行えるためにグループで進行を考える 各グループ毎時間内に終れるよう課題を考える	事例展開　グループワーク ①	演習
第6回		事例展開　グループワーク ②	演習
第7回		事例展開　グループワーク ③	演習
第8回		事例展開　グループワーク ④	演習
第9回		事例展開　グループワーク ⑤	演習
第10回	教科書1第7章 入院治療を受ける高齢者の看護	退院支援	講義
第11回	講義を復習	事例展開　グループワーク ①	演習
第12回		事例展開　グループワーク ②	演習
第13回		事例展開　グループワーク ③	演習
第14回	発表のための準備	グループワーク発表	演習
第15回			
テキスト 参考書	1. 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 3. カラー写真で学ぶ 高齢者の看護技術 医歯薬出版株式会社		
成績 評価方法	1. 看護過程の展開 演習…①アセスメント 40点（個人：30点　グループワーク：10点） ②関連図 10点 ③看護計画 10点 ④退院支援 20点 ⑤発表 20点 2. 演習の取り組み姿勢、提出物の不備・遅延は減点の対象とする		
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

小児看護学　　6単位 （195時間）

目的 ： 環境との相互作用の中で成長発達を続ける子どもとその家族を理解し、子どもを取り巻く健康問題を解決するとともに、未来を担う子どもの生きる力を育む看護を実践するための看護の方法を学ぶ。

授業科目名	単位数	時間数	目　的
小児看護学概論	1	15	小児看護の概念と小児各期の特徴を理解し、小児看護の機能と役割を学ぶ。
小児看護学方法Ⅰ	1	30	小児保健の意義や動向を理解し、小児各期の成長発達の特徴や健康問題を考え、対策を学ぶ。
小児看護学方法Ⅱ	1	30	健康障害をもつ子どもと家族に対し、健康レベルや状態に応じた看護の方法を学ぶ。
小児看護学方法Ⅲ	1	30	
小　計	4	105	
小児看護学実習	2	90	小児各期における対象を理解し、成長発達に応じた養護と看護ができる能力を身につける。
小　計	2	90	
総　　計	6	195	

令和4年4月

科目名	小児看護学概論	1単位 15時間　　履修時期 ： 2年次　前期	
科目目標	1. 小児看護の対象と特徴、小児看護の変遷について学ぶ。 2. 現在の子どもと家族の保健統計の特徴について学ぶ。 3. 子どもにとっての環境の影響と因子について学ぶ。 4. 子どもの人権と倫理的課題について学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	テキストの関連箇所を読んでくる	小児看護の対象と看護の役割	講義
第2回		小児看護の変遷、成長発達の概念・原則	講義
第3回	統計からみた課題を考える	小児保健統計	講義
第4回	自己の成長発達に関連した因子を考える	子どもと環境、子どもと家族	個人ワーク
第5回	事例の成長発達の関連因子を考える	子どもと環境、子どもと家族	グループワーク
第6回	成長発達の関連因子を考え、発表準備	子どもと環境、子どもと家族	発表
第7回	子どもの権利に関する法律など調べる	子どもの人権と倫理的課題	講義
第8回 （45分）		終講試験	
テキスト 参考書	1. 系統看護学講座　専門分野　小児看護学1　小児看護学概論　小児臨床看護総論　医学書院 2. 国民衛生の動向		
成績 評価方法	筆記試験　（85点） 演習点　（15点） ・子どもの育つ環境について		
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

令和4年4月

科目名	小児看護学方法Ⅰ	1単位 30時間　　履修時期 ： 2年次　前期・後期	
科目目標	1. 小児各期の成長発達の特徴を理解し、看護について学ぶ。 2. 小児各期の栄養、遊び、安全の特徴について学ぶ。 3. 基本的生活習慣の獲得を理解し、日常生活の援助方法について学ぶ。 4. 各発達段階にある子どもの生活の特徴と問題について学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	自分の成長発達を調べる	子どもの成長発達	グループワーク
第2回	GWの内容を自己学習	子どもの成長発達	グループワーク
第3回	各期の成長発達の特徴を予習する	子どもの成長発達	発表
第4回		子どもの成長発達	発表
第5回	小児各期の成長発達の特徴を表にまとめる GWでの学びを復習しておく	小児各期の成長と発達 ―形態的発達―	講義
第6回		小児各期の成長と発達 ―運動機能的発達、心理・社会的発達―	講義
第7回		小児各期の成長と発達 ―機能的発達―	講義
第8回	乳児の食事の世話を読み理解しておく	子どもの栄養	講義
第9回	各期の成長発達の特徴を復習しておく	基本的生活習慣の獲得	講義
第10回	テキスト(3)授乳・おむつ交換・抱っこを読んでおく	乳児の生活援助の実際(哺乳)	演習
第11回	各期の成長発達の特徴を復習しておく	子どもと遊び	講義
第12回	予防接種・関連する法を読んでおく 小児感染症の復習	子どもの感染予防と予防接種	講義
第13回	テキスト(1・2)事故防止を読んでおく	子どもと安全	講義
第14回	学童・思春期の特徴を復習しておく	学童・思春期の子どもの生活と健康問題	講義
第15回		まとめ　終講試験	
テキスト 参考書	1. 系統看護学講座　専門分野　小児看護学1　小児看護学概論　小児臨床看護総論　医学書院 2. 系統看護学講座　専門分野　小児看護学2　小児臨床看護各論　医学書院 3. 写真でわかる小児看護技術　新訂版　インターメディカ 4. 国民衛生の動向		
成績 評価方法	筆記試験　(85点) 演習点　(15点) ・子どもの成長発達について		
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

令和4年4月

科目名	小児看護学方法Ⅱ	1単位　30時間　　履修時期　：　2年次　　前期・後期	
科目目標	1. 病気や入院が子どもと家族に与える影響を理解し、看護について学ぶ。 2. 外来の特徴と役割を理解し、看護について学ぶ。 3. さまざまな状況にある子どもと家族の特徴を理解し、看護について学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	国家試験出題基準を参考に関連箇所のテキストを読んでくる 病態生理学Ⅲ（小児）の復習	病児と家族の理解①	講義
第2回		病児と家族の理解②	講義
第3回		外来における子どもと家族の看護	講義
第4回		地域と施設を結ぶ看護 ―医療的ケアが必要な子どもへの看護―	講義
第5回		安静を必要とする子どもと家族の看護 ―活動制限のある子ども―	講義
第6回		安静を必要とする子どもと家族の看護 ―抑制、固定を必要とする子ども―	講義、演習
第7回		薬物療法を必要とする子どもと家族の看護①	講義
第8回		薬物療法を必要とする子どもと家族の看護②	講義
第9回		隔離を必要とする子どもと家族の看護	講義
第10回		検査・処置を必要とする子どもと家族の看護	講義
第11回		検査・処置の実際、プレパレーション	講義　演習
第12回		慢性期にある子どもと家族の看護	講義
第13回	関連する新聞記事を選び考えをまとめる	子どもの諸問題	グループワーク
第14回	資料を基に諸問題の関連を考える	子どもの諸問題	発表
第15回		まとめ　　終講試験	
テキスト 参考書	1. 系統看護学講座　専門分野　小児看護学1　小児看護学概論　小児臨床看護総論　　医学書院 2. 系統看護学講座　専門分野　小児看護学2　小児臨床看護各論　　医学書院 3. 写真でわかる小児看護技術　新訂版　　インターメディカ 4. 疾患別看護過程　第6版　　学研 5. 国民衛生の動向		
成績 評価方法	筆記試験　（90点） 演習点　　（10点）		
担当講師	実務経験がある講師	職種	看護師・専任教員

令和4年4月

科目名	小児看護学方法Ⅲ	1単位　30時間　　履修時期　：　2年次　　後期	
科目目標	1．さまざまな病期にある子どもと家族の特徴を理解し、看護について学ぶ。 2．先天性疾患のある子どもと家族の特徴を理解し、看護について学ぶ 3．小児看護過程の特徴を理解し、看護の展開方法を学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	国家試験出題基準を参考に関連箇所のテキストを読んでくる 病態生理学Ⅲ（小児）の復習	周手術期にある子どもと家族の看護①	講義
第2回		周手術期にある子どもと家族の看護②	講義
第3回		急性期症状のあるにある子どもと家族の看護	講義
第4回		救急救命処置が必要な子どもと家族の看護	講義
第5回		終末期にある子どもと家族の看護①	講義
第6回		終末期にある子どもと家族の看護②	講義
第7回		終末期にある子どもと家族の看護③	講義
第8回		先天性疾患のある子どもと家族の看護	講義
第9回		心身障害のある子どもと家族の看護	講義
第10回	病態生理学、成長発達の復習 関連する子どもへの養護、看護の復習	小児看護過程演習　「気管支喘息の事例」	演習
第11回		小児看護過程演習　「気管支喘息の事例」	演習
第12回		小児看護過程演習　「気管支喘息の事例」	演習
第13回		小児看護過程演習　「気管支喘息の事例」	演習
第14回		小児看護過程演習　「気管支喘息の事例」	演習
第15回		まとめ　　終講試験	
テキスト 参考書	1．系統看護学講座　専門分野　小児看護学1　小児看護学概論　小児臨床看護総論　　医学書院 2．系統看護学講座　専門分野　小児看護学2　小児臨床看護各論　　医学書院 3．写真でわかる小児看護技術　新訂版　　インターメディカ 4．疾患別看護過程　第6版　　学研		
成績 評価方法	筆記試験　　（70点） 看護過程の演習点　（30点）		
担当講師	実務経験がある講師	職種	看護師・専任教員

母性看護学　　6単位 （195時間）

目的 ： 人間の性と生殖を理解し、母性の一生の機能が健全に発揮でき、健康で充実した生活を支援するための援助の方法を学ぶ。

授業科目名	単位数	時間数	目 的
母性看護学概論	1	15	母性看護の概念と特徴を理解し、母性看護の機能と役割を学ぶ。
母性看護学方法Ⅰ	1	30	母子保健の意義を理解し、ライフサイクルに応じたヘルス･ケアと保健対策について学ぶ。
母性看護学方法Ⅱ	1	30	周産期（妊娠・分娩・産褥・新生児）の経過を理解し、母子関係を確立するための看護の方法を学ぶ。
母性看護学方法Ⅲ	1	30	
小 計	4	105	
母性看護学実習	2	90	妊婦・産婦・褥婦・新生児の特徴を理解し、産褥期の順調な経過及び親子関係形成に向けた看護が出来る基礎的能力を身につける。
小 計	2	90	
総　計	6	195	

令和4年4月

科目名	母性看護学概論	1単位　15時間　　履修時期　：　1年次　後期	
科目目標	1．母性看護の概念と特徴を学ぶ。 2．セクシュアリティについて理解し、自己の身体に関心が持てる。 3．生命の誕生を通して母性看護の本質を学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	シラバス内容の確認	母性の概念・母性看護の役割	講義・演習
第2回	自分なりの母性のイメージを考える	セクシュアリティ	講義・演習
第3回	6章A家族計画を読んでくる	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	講義
第4回	3章C②を読んでくる	母性の発達・成熟・継承	講義・DVD
第5回		生命の誕生	DVD・演習
第6回	1章F読んでくる	母性看護のあり方・本質	講義
第7回	4章C①②3読んでくる	母性看護に使われる看護技術	講義
第8回 （45分）		終講試験	
テキスト 参考書	1．系統看護学講座　専門分野　母性看護学1　母性看護学概論　医学書院		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

科目名	母性看護学方法Ⅰ	1単位 30時間 履修時期 ： 2年次 前期	
科目目標	1. 母子保健の意義と現状を理解し、必要な支援を学ぶ。 2. リプロダクティブヘルスケアの課題を理解し、健全な世代の育成について学ぶ。 3. 母性各期の特徴と看護の対象を学ぶ。 4. 母性看護における倫理について学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	2章A①読んでくる	母子保健の意義	講義
第2回		母性看護の歴史的変遷と現状	講義・演習
第3回	2章A②読んでくる	母子に関する保健統計・法律	講義
第4回	2章A⑤読んでくる	母性看護に関係する組織・場・職種	演習
第5回	2章A④読んでくる	周産期医療システム・母子保健対策と活用	講義・演習
第6回	6章A読んでくる	リプロダクティブヘルスケア 1）人工妊娠中絶と看護	講義
第7回		2）家族計画 3）性感染症とその予防	演習
第8回		4）若年妊娠とその看護	演習
第9回	5章A①読んでくる	母性各期の特徴と健康問題・女性を中心とした看護 1）思春期女性の特徴と健康問題	演習
第10回		2）成熟期女性の特徴と健康問題	演習
第11回		3）更年期女性の特徴と健康問題	演習
第12回	事例から自己の考えを明らかにする	母性看護と倫理 ディベート	講義・演習
第13回		1）生命倫理と看護倫理 2）生殖医療	演習
第14回		3）出生前診断 4）人工妊娠中絶	演習
第15回		まとめ 終講試験	
テキスト 参考書	1. 系統看護学講座 専門分野 母性看護学1 母性看護学概論 医学書院 2. 国民衛生の動向		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

令和4年4月

科目名	母性看護学方法Ⅱ	1単位 30時間　履修時期 ： 2年次　前期・後期	
科目目標	1．妊娠の生理的変化を理解し、母子関係の確立のための方法を学ぶ。 2．妊娠期における正常からの逸脱を予防する看護を学ぶ。 3．胎児の発育過程を理解し、環境について学ぶ。 4．分娩経過がわかり、分娩期の看護について学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	1・3章A読む	妊娠期における看護 1）妊娠の生理	講義
第2回		2）胎児の発育とその生理、 母体の生理的変化	講義
第3回	1・3章B読む	3）胎児の発育、妊婦の心理	講義
第4回		4）妊婦と家族及び社会 妊娠とその診断、検査	講義
第5回	1・3章C③読む	5）胎児の発育と健康状態のアセスメント	講義
第6回	1・3章④読む	6）妊婦の健康状態のアセスメント	講義
第7回	1・3章D①②読む	7）妊婦と家族の看護	講義
第8回	1・7章A①②③④読む	8）ハイリスク妊婦の看護：妊娠糖尿病・妊娠高血圧症候群・胎盤異常	講義
第9回	1・4章A読む	分娩期における看護 1）分娩の要素	講義
第10回	1・4章B読む	2）分娩の経過	講義
第11回	1・4章C①読む	3）産婦・胎児のアセスメント	講義
第12回	1・4章E読む	4）分娩期：産婦と家族の看護	講義
第13回	1・7章ⅡA　B読む	6）分娩の異常と看護：産道の異常・娩出力の異常	講義
第14回	1・7章ⅡC読む	7）分娩の異常と看護：胎児及び付属物の異常・異常出血	講義
第15回		まとめ　終講試験	
テキスト 参考書	1．系統看護学講座　専門分野　母性看護学1　母性看護学概論　医学書院 2．写真でわかる母性看護技術　インターメディカ 3．疾患別看護過程の展開　第6版　医学書院		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	助産師

令和4年4月

科目名	母性看護学方法Ⅲ	1単位 30時間 履修時期 : 2年次 後期	
科目目標	1. 産褥経過を理解し、セルフケアの支援を学ぶ。 2. 家族形成への支援について学ぶ。 3. ハイリスク褥婦の特徴を理解し、必要な看護を学ぶ。 4. 新生児の生理を理解し、子宮外生活適応への看護を学ぶ。 5. ウェルネスに基づく看護過程の展開方法を学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	1・6章A読む	褥婦の看護 1）産褥経過	講義
第2回		2）褥婦と家族の看護・施設退院にむけての看護	講義
第3回	基礎看護学・ 手術療法を復習	3）帝王切開後の看護	講義
第4回	1・7章ⅣABCD読む	4）ハイリスク褥婦の看護：分娩後の合併症に対する看護	講義
第5回		5）死産・障害を持つ新生児を出産した親への看護	講義
第6回	1・5章A読む	新生児の看護 1）新生児の生理と機能	講義
第7回	1・5章B②読む	2）新生児の健康状態のアセスメント	講義
第8回	1・5章B①読む	3）ハイリスク新生児の評価	講義
第9回	1・7章ⅢA読む	4）新生児の異常と看護：早産・低出生体重児・障害を持つ児	講義
第10回		5）新生児 出生直後の看護	講義
第11回	1・5章C①②読む	6）新生児の出生後から退院までの看護	校内演習
第12回	ウエルネス看護診断	事例展開①「初産婦の妊娠・分娩・産褥経過と新生児」	演習
第13回		事例展開②「初産婦の妊娠・分娩・産褥経過と新生児」	演習
第14回		事例展開③「初産婦の妊娠・分娩・産褥経過と新生児」	演習
第15回		まとめ 終講試験	
テキスト 参考書	1. 系統看護学講座 専門分野 母性看護学1 母性看護学概論 医学書院 2. 写真でわかる母性看護技術 インターメディカ 3. 疾患別看護過程の展開 第6版 医学書院		
成績 評価方法	筆記試験（80点） 看護過程展開の演習点（20点）		
担当講師	実務経験がある講師	職種	助産師・専任教員

精神看護学　　7単位 （195時間）

目的 ： 人間のこころの健康やこころの発達を理解し、こころの構造や働きから、精神の健康を保持・増進するための援助と、精神に障害のある人および家族に必要な看護を学ぶ。

授業科目名	単位数	時間数	目 的
精神看護学概論	1	30	精神看護の目的と対象の特性を理解し、健全な精神の保持・増進を図るための保健・医療・福祉の動向を学ぶ。
精神看護学方法Ⅰ	1	15	精神保健看護の概念と対象の特徴を理解し、精神障害者支援の基盤となる理論および精神看護における治療的コミュニケーション技術を学ぶ。
精神看護学方法Ⅱ	1	30	こころに障害を持つ対象とその家族に対し、健康レベルや状態に応じた看護の方法を学ぶ。
精神看護学方法Ⅲ	1	30	
小 計	4	105	
精神看護学実習	2	90	あらゆる精神現象にある対象との関わりを通して、精神に障害がある対象を理解し、精神状態に応じた看護実践に必要な知識・技術・態度を身につける。
小 計	2	90	
総　計	6	195	

令和4年4月

科目名	精神看護学概論	1単位 30時間　　履修時期 ： 1年次　後期	
科目目標	1．精神看護の目的と対象の特性について学ぶ。 2．こころの健康・発達と、各ライフサイクルにおける精神の健康問題を理解し、 健全な精神の保持・増進を図るための保健・医療・福祉の動向をまなぶ。 3．精神医療と看護の歴史・変遷について学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	精神障害者・精神病院・精神看護について自分の持っているイメージを整理しておく	精神看護学で学ぶこと ［第1章］	講義・演習
第2回		DVD視聴 「ツレがうつになりまして」	DVD視聴
第3回	自身のストレスと行っている対処方法について考えておく	心の健康・ストレス・ストレスコーピング［第2章］	講義・演習
第4回	該当の教科書を読んでおく	人間の心の諸活動 ［第3章A］	講義・演習
第5回	該当の教科書を読んでおく	人間の心のしくみと人格の発達（自我の防衛機制）［第3章B③］	講義・演習
第6回			講義・演習
第7回	該当の教科書を読んでおく	人間の心のしくみと人格の発達［第3章B④～⑦］	講義・演習
第8回			講義・演習
第9回	該当の教科書を読んでおく	ライフサイクルと心の健康① ［第3章B②］	講義・演習
第10回			講義・演習
第11回		精神看護に必要な理論	講義・演習
第12回	該当の教科書を読んでおく	精神障害と治療の歴史 ［第7章A］	講義・演習
第13回	該当の教科書を読んでおく	精神障害と治療の場 ［第13章］	講義・演習
第14回	14章B・C①を読んでおく	リエゾン精神看護 ［第14章］	講義・演習
第15回		まとめ　終講試験	
テキスト 参考書	1．系統看護学講座　専門分野　精神看護学1　精神看護の基礎　医学書院 2．系統看護学講座　専門分野　精神看護学2　精神看護の展開　医学書院		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

令和4年4月

科目名	精神看護学方法Ⅰ	1単位　15時間　　履修時期　：　2年次　　前期	
科目目標	精神保健看護の概念と対象の特徴を理解し、精神障害者支援の基盤となる理論および精神看護における治療的コミュニケーション技術を学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	第8章Aを読んでおく	社会の動向と精神保健看護	講義・演習
第2回	第8章Bを読んでおく	共感・患者看護師関係	講義・演習
第3回	看護学概論の理論家の復習を行う	精神看護に必要な理論	講義・演習
第4回	第4章を読んでおく	関係のなかの人間①［第4章］	講義・演習
第5回		関係のなかの人間②［第4章］	講義・演習
第6回	第8章Cを読んでおく	精神看護に用いられるコミュニケーション技術①	講義・演習
第7回		精神看護に用いられるコミュニケーション技術②	講義・演習
第8回（45分）		終講試験	
テキスト参考書	1．系統看護学講座　専門分野　精神看護学1　精神看護の基礎　　医学書院 2．系統看護学講座　専門分野　精神看護学2　精神看護の展開　　医学書院		
成績評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

令和4年4月

科目名	精神看護学方法Ⅱ	1単位　30時間　　履修時期　：　2年次　　前期・後期	
科目目標	1．精神に障害をもつ患者とその家族に必要な看護について学ぶ。 2．精神医療における各種治療法とその看護について学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回		精神障害と精神症状、 精神科病棟での看護の実際	講義
第2回	病院見学オリエンテーション資料を読んでおく	治療的環境の実際	病院見学
第3回			
第4回	教科書第5章の該当ページを読んでおく	統合失調症の理解と看護　①	講義
第5回		統合失調症の理解と看護　②	講義
第6回		気分障害の理解と看護	講義
第7回		人格障害の理解と看護　　緊急状態への対応	講義
第8回		神経症の理解と看護	講義
第9回		認知行動療法・アルコール依存症の理解と看護	講義
第10回	教科書第6章の該当ページを読んでおく	薬物療法と看護	講義
第11回		精神療法と社会療法・認知行動療法・医療観察法制度	講義
第12回		家族療法・家族支援・看護者の役割・精神科リハビリテーション	講義
第13回		精神障害者の理解 「17歳のカルテ」	DVD視聴・演習
第14回			
第15回		まとめ　　終講試験	
テキスト 参考書	1．系統看護学講座　専門分野　精神看護学1　精神看護の基礎　　医学書院 2．系統看護学講座　専門分野　精神看護学2　精神看護の展開　　医学書院		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種	看護師

令和4年4月

科目名	精神看護学方法Ⅲ	1単位　30時間　　履修時期　：　2年次　　後期	
科目目標	1．地域精神保健活動を理解し、精神障害者支援の基盤となるアプローチ方法を学ぶ。 2．集団精神療法の方法を学ぶ。 3．事例演習を通して、精神に障害をもつ患者に対する看護の展開方法を学ぶ。 1）IADL・精神面・社会的側面をアセスメントできる。 2）ストレングスモデルの活用方法を学ぶ。 3）プロセスレコードの活用方法を学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	第13章A～Dを読んでおく	地域保健福祉活動	講義
第2回		地域精神保健に関する制度と施設・社会資源の活用①	講義・演習
第3回		地域精神保健に関する制度と施設・社会資源の活用②	講義・演習
第4回	第6章C・Dを読んでおく	精神科リハビリテーション①	講義・演習
第5回		精神科リハビリテーション②	講義・演習
第6回		精神科リハビリテーション③	講義・演習
第7回	提示された事例について自己学習を行う	事例展開Ⅰ：対象理解・セルフアセスメント	講義・個人ワーク
第8回		事例展開Ⅰ：対象理解・セルフアセスメント	講義・個人ワーク
第9回	ストレングスモデル実践活用術のIntroductionを読んでおく	ストレングスモデルについて ストレングスマッピングシートの活用法	講義
第10回		事例展開Ⅱ：対象理解・強みのアセスメント	講義・個人ワーク
第11回		事例展開Ⅱ：ストレングスモデルを活用し、 ストレングスマッピングシートを書く	個人ワーク
第12回	「プロセスレコード入門」を読んでおく	プロセスレコード	講義
第13回		事例展開Ⅲ：プロセスレコードの活用	個人ワーク
第14回		事例展開Ⅲ：プロセスレコードの活用	個人ワーク
第15回		まとめ　終講試験	
テキスト 参考書	1．系統看護学講座　専門分野　精神看護学1　精神看護の基礎　医学書院 2．系統看護学講座　専門分野　精神看護学2　精神看護の展開　医学書院 3．系統看護学講座　別巻　精神保健福祉　医学書院 4．疾患別看護過程の展開　第6版　学研 5．リカバリー・退院支援・地域連携のためのストレングスモデル実践活用術　医学書院		
成績 評価方法	筆記試験　（30点） 演習点　（70点）		
担当講師	実務経験がある講師	職種	看護師・専任教員　他

看護の統合と実践　　7単位 （210時間）

目的 ： 臨地で必要とされる多職種との協働・連携、医療安全、マネジメントができるための知識を学び、既習の知識・技術と統合させて、状況判断に基づいた看護実践ができる能力を身につける。

授業科目名	単位数	時間数	目 的
チーム医療	1	15	多職種との協働学習を通して、協働する目的や意味、職種による考え方・対象者への関わり方の共通点や相違点、専門性を学び、チーム医療の中での看護の位置づけを考える。
医療安全	1	30	臨床で起こりやすい医療事故、医療事故予防に関する事故要因の抽出と分析方法を学び、医療事故の防止と看護の責任を果たすために必要な思考力を身につける。
マネジメント論	1	15	チーム医療における看護職の役割、組織の中での自己の役割を理解し、セルフ・マネジメントができる能力を身につける。
災害看護	1	30	災害が生命や生活に及ぼす影響と看護の役割を理解し、災害時における災害看護活動の基本を学ぶ。
統合演習	1	30	既習の知識と技術を統合し、対象の状態に応じた看護を実践する方法を学ぶ。
小 計	5	120	
統合実習	2	90	医療チームの中での協働・連携について理解し、看護専門職者としての責任と判断力を身につける。
小 計	2	90	
総　計	7	210	

令和4年4月

科目名	チーム医療	1単位 15時間　履修時期 ： 2年次　後期	
科目目標	1. 協働学習を通して、多職種と協働する目的や意味を考え、職種による考え方・対象者への関わり方の共通点や相違点が理解できる。 2. 保健・医療・福祉職に就くための法律と専門性を理解し、チーム医療の中での看護の位置づけを考えることができる。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	保健・医療・福祉に携る職種を想起し、専門性を考える	多職種とは　多職種と連携する必要性	講義
第2回		チーム医療と多職種連携	講義
第3回		保健・医療・福祉職に関する 法律と専門性	演習
第4回		保健・医療・福祉職に関する 法律と専門性	演習
第5回	事例に関する事前学習を行う	事例展開	協同学習
第6回		模擬カンファレンス 学習成果の発表	協同学習
第7回	職種の視点・考え方の違いを想起する	リフレクション	講義
第8回 (45分)		課題レポート作成	
テキスト 参考書	1. 系統看護学講座　専門基礎　健康支援と社会保障制度4　看護関係法令　医学書院		
成績 評価方法	課題レポート		
担当講師	実務経験のある講師	職種	専任教員

科目名	医療安全	1単位 30時間　履修時期 ： 2年次　後期	
科目目標	1. 医療事故予防に関する事故要因の抽出と分析方法を学ぶ。 2. 臨床で起こりやすい医療事故について学ぶ。 3. 医療事故の防止と看護の責任を果たすために必要な医療安全に対する思考力を身につける。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	安全を守る技術を復習しておく	医療事故予防のための看護システム 医療事故予防の分析方法	講義
第2回		医療事故の実際と予防の分析	講義
第3回		医療事故の実際と予防の分析	演習
第4回	提示している参考図書を読んでおく	臨床現場での医療事故の実際	演習
第5回		臨床現場での医療事故の実際	講義
第6回		臨床現場での医療事故の実際	講義
第7回	各自事前学習を行い、グループワークで自己の意見を述べられる準備をしておく	ゼミナールⅠ①	演習
第8回		ゼミナールⅠ②	演習
第9回		ゼミナールⅠ③	演習
第10回		ゼミナールⅠ④	演習
第11回		ゼミナールⅡ①	演習
第12回		ゼミナールⅡ②	演習
第13回		ゼミナールⅡ③	演習
第14回		ゼミナールⅡ④	演習
第15回		まとめ　終講試験	
テキスト 参考書	1. 系統看護学講座　統合分野　看護の統合と実践2　医療安全　医学書院 2. 看護技術プラクティス　第4版　学研 3. 医療安全ワークブック　第4版　医学書院		
成績 評価方法	筆記試験　（90点） 課題レポート ゼミナールⅠ　（10点） ゼミナールⅡ		
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

令和4年4月

科目名	マネジメント論	1単位　15時間　　履修時期　：　3年次　　前期	
科目目標	1．マネジメントの基本的な考えと理論を学び、組織の中での自己の役割を理解し、セルフ・マネジメントができる能力を身につける。 2．チーム医療における看護職の役割を理解し、協働・連携のマネジメント方法を学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	生活の中で行われているマネジメントについて考える	マネジメントとは　　マネジメントプロセス	講義
第2回	自己のキャリアについて考えておく	キャリアマネジメント	講義
第3回	チーム医療の講義を復習しておく	チーム運営 リーダーシップ・フォロアーシップ	講義・演習
第4回	参考図書を読んで講義に参加する	看護管理過程 看護の質保証と看護管理	講義
第5回		看護師に必要なマネジメント力	講義
第6回		病棟での看護管理の実際1	講義
第7回		病棟での看護管理の実際2	講義
第8回 （45分）		終講試験	
テキスト 参考書	1．系統看護学講座　統合分野　看護の統合と実践1　看護管理　　医学書院		
成績 評価方法	筆記試験		
担当講師	実務経験のある講師	職種	看護師・専任教員

科目名	災害看護	1単位　30時間　履修時期　：　3年次　　前期・後期	
科目目標	災害が生命や生活に及ぼす影響と看護の役割を理解し、災害時における災害看護活動の基礎を学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	テキストの該当箇所 を事前に学習しておく	災害看護概論：歴史に見る災害時の対応	講義
第2回	新聞、マスメディアを活用し災害に関する様々な情報に関心をもつ	災害の種類と疾病の特徴 災害看護とは　1）災害サイクル	講義
第3回	各自の地域の ハザードマップを 確認・持参 自分自身の災害への 備えについて考えてくる	災害看護とは　2）災害に備えて	講義・演習
第4回		災害情報 災害医療の考え方	講義
第5回	学習した内容を復習しておく トリアージについて予習しておく	災害医療の考え方 トリアージ	講義
第6回		トリアージ　1）　演習Ⅰ　スタート法を用いて 10事例検討　・解答	講義
第7回	トリアージの復習 母性看護・小児看護 について予習しておく	トリアージ　2）　演習Ⅱ　ソート法を用いて 10事例検討	演習
第8回		トリアージ　2）　演習Ⅱ　10事例解答 3）　トリアージ訓練	演習・DVD視聴
第9回	救急法について予習 破傷風について復習 感染予防の方法を予習	戦傷外科・被災者と避難所のケア	講義
第10回		慢性期疾患患者と災害看護・女性と災害看護	講義
第11回	慢性疾患患者について復習しておく 小児看護の復習 精神看護の復習	小児と災害 グリーフケア・災害とストレス	講義・ グループワーク
第12回		災害とストレス・被災者の精神保健	講義
第13回		まとめ　　終講試験	
第14回	＊トリアージについて 復習しておく ＊各自の役割を 理解しておく	丹波市消防の広域災害訓練に参加	訓練参加
第15回			
テキスト 参考書	1．系統看護学講座　統合分野看護の統合と実践3　災害看護・国際看護　医学書院		
成績 評価方法	筆記試験　（70点） 演習事例課題（10点）・机上訓練参加（20点）		
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

科目名	統合演習	1単位 30時間　　履修時期 ： 3年次　前期・後期	
科目目標	既習の知識と技術を統合し、対象の状態に応じた看護を実践する方法・考え方を学ぶ。		
回数	事前課題	講義内容	学習方法
第1回	既習した学習・実習から明らかにしたい健康問題をピックアップし、理由をレポート	1．暮らしと健康問題： 明らかにしたいテーマとフィールドを決定	演習
第2回		フィールドワーク①	演習
第3回	毎回　フィールドワークの視点を明らかにする	フィールドワーク②	演習
第4回		フィールドワーク③	演習
第5回		必要な看護実践内容と方法を決定する	演習
第6回	プレゼン準備・レポート作成	テーマの結論とプロセスを発表	プレゼン
第7回		2．臨床判断：気づくトレイニング	演習
第8回		3．コミュニケーション能力の強化	演習
第9回	消化器手術の経過を復習	4．多重課題のアセスメント：状況の判断、予測される問題	演習
第10回		多重課題のアセスメント：看護上の問題・優先順位決定	演習
第11回	課題に基づいた援助計画立案	多重課題のアセスメント：援助計画立案・学力試験	演習
第12回		援助計画に基づいた技術練習	演習
第13回		援助計画に基づいた技術練習	演習
第14回		OSCE・リフレクション・評価	演習
第15回		プロセスの振り返り：学びと課題の明確化	演習
テキスト 参考書			
成績 評価方法	レポート　（30点）　学力試験　（20点） OSCE　（50点）		
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

実習目的

あらゆる発達段階・健康段階にある対象を理解し、科学的根拠に基づいて、必要な看護を創造し実践できる能力を養う。また、生命の尊厳を護り人権を尊重する倫理的態度を身につける。

実習目標

1. あらゆる発達段階・健康段階にある対象を、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面を持つ全人的な存在として理解できる。

2. 対象への看護の必要性が科学的根拠に基づいて判断できる。

3. 対象の多様な価値観を尊重し、自己決定を支える看護が実践できる。

4. 対象の安全を守り、プライバシーの尊重・倫理観に基づいた看護ができる。

5. 保健・医療・福祉チームの一員における看護の機能や役割を理解し、生活を支える視点での関連職種との連携と調整の必要性がわかる。

6. 看護実践を通して、自己の看護観を深めることができる。

7. 専門職業人としての自覚を持ち、看護を追究し未来の看護を担う研究的態度を身につける。

令和4年度　臨地実習構成表

あらゆる発達段階・健康段階にある対象を理解し、科学的根拠に基づいて、必要な看護を実践できる基礎的能力を養う。また、生命の尊厳を護り、人権を尊重する倫理的態度を身につける。

分野	科目	単位数	時間数	目的	実習する内容	時期	実習場所
専門分野	基礎看護学実習	3	135	基礎看護学で学んだ理論や方法を臨床の場面において体験し、看護実践に必要な知識・技術・態度を養う。			
	Ⅰ		45	問題解決思考を用いて援助の必要性を明確にし、生活を調整する看護を学ぶ。	生活援助の看護	1年後期	病院
	Ⅱ	2	90	看護過程の展開技術を用いて健康回復へ向けた看護を学ぶ。	問題解決技法と看護	2年後期	病院
	地域・在宅看護論実習	2	90	地域で生活しながら療養する人とその家族のケアニーズを理解し、対象に応じた看護実践に必要な知識・技術・態度を養う。			
		2	67.5	在宅療養する人とその家族の生活を理解し、主体性を尊重しながら生活を豊かにするための看護を学ぶ。	在宅療養者の看護	3年次	訪問看護ステーション
			22.5	在宅療養を必要とする対象の理解、各種居宅サービスの機能と役割、ケアマネージメントの実際と社会資源の活用の実際を学ぶ。	地域での支援の理解	3年次	地域包括支援センター 居宅介護支援事業所
	成人・老年看護学実習	10	450	成人・老年看護学で学んだ理論や方法を基礎とし、看護実践に必要な知識・技術・態度を養う。			
	Ⅰ	2	90	地域で生活している高齢者と関わり、老化の個別性を理解する。	地域で生活する高齢者の理解	2年次	老人大学 宅老所 いきいき百歳体操 健診センター グループホーム
	Ⅱ	2	90	身体侵襲の大きい治療を受けた急性・回復状態にある患者・家族を理解し、回復力を引き出す援助を学ぶ。	危機的状況から回復の過程をたどる患者の看護	2・3年次	病院
	Ⅲ	2	90	老化や健康障害により生活機能が低下した患者・家族を理解し、患者の療養生活を支える生活調整への看護、継続看護を学ぶ。	生涯、生活をコントロールする継続看護の必要のある患者の看護	2・3年次	病院
	Ⅳ	2	90	死を免れない患者・家族を理解し、その人らしい生を全うすることを支える看護を学ぶ。	死をまぬがれない患者の看護	3年次	病院 介護老人保健施設 介護老人福祉施設 寺院 葬儀社
	Ⅴ	2	90	自己の追究したいテーマに沿ったフィールドにおいて実践への深い関心と看護への探究を考え学ぶ。	テーマの追究に関する看護	3年次	病院

分野	科目	単位数	時間数	目的	実習する領域	時期	実習場所
専門分野	小児看護学実習	2	90	小児各期における対象を理解し、成長発達に応じた養護と小児看護の実践に必要な知識・技術・態度を養う。			
	小児看護学実習	2	16	子どもの成長発達の特徴を理解し、発達段階に応じた養護の方法を学ぶ。	小児の成長発達の理解	3年次	認定子ども園
			5				保健センター アフタースクール
			6	子どもが健やかに育つための地域の支援の実際を学ぶ。			小学校
			8		障がい児の理解		こども発達支援センター
			47	疾病や入院が子どもや家族に及ぼす影響を理解し、入院生活を送っている子どもの成長発達をふまえた看護を学ぶ。	健康障害のある小児の看護	3年次	病院
	母性看護学実習	2	90	妊娠・産婦・褥婦・新生児の特徴を理解し、産褥期の順調な経過および親子関係形成に必要な知識・技術・態度を養う。			
	母性看護学実習	2	90	母子の生活が円滑に行われるための地域の支援体制を学ぶ。	妊婦・褥婦・新生児の理解	3年次	周産期外来 母親学級
				産婦・褥婦・新生児の特徴を理解し、産褥期の順調な経過および親子関係形成にむけた看護を学ぶ。	妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護		病院
	精神看護学実習	2	90	あらゆる精神現象にある対象との関わりを通して、精神に障害がある対象を理解し、精神状態に応じた看護実践に必要な知識・技術・態度を養う。			
	精神看護学実習	2	15	精神科のデイケアや就労移行支援の意義や役割を理解し、精神障害者の社会復帰支援について学ぶ。	地域で生活する精神障害者の理解	2・3年次	就労移行支援事業所 デイケアセンター
			75	施設で生活している精神に障害をもつ患者の特徴を理解し、治療的関わりを通した看護を学ぶ。	精神障害者の看護	2・3年次	病院
	統合実習	2	90	医療チームの中での協働・連携について理解し、看護専門職者としての責任と判断力を養う。	看護管理の実際の理解・多重課題の看護	3年次	病院
合　　計		23	1035				

【 専門基礎分野 】 フィジカルアセスメント

科目名	講義	DVD視聴	校内実習	
			デモンストレーションのみ	実施
フィジカルアセスメント	フィジカルイグザミネーション 状態別の観察 検査データーの読み方 記録、報告 意識レベル 身体計測(角度計)	・総論 問診、視診のポイント ・触診、打診、聴診の ポイント ・呼吸器のアセスメント その1 その2 ・循環器のアセスメント	血圧測定 （下腿、大腿） 湯タンポ （ゴム） 温罨法(タオル) 氷枕、氷嚢	呼吸測定 血圧測定 （上腕） 脈拍測定 体温測定 （腋窩） 瞳孔測定・対光反射 呼吸音の聴取 心音の聴取 パルスオキシメータ 腸蠕動音の聴取 腹囲測定 身体計測 （握力、角度計）

【 専門分野 】 基礎看護学

科目名		講義	DVD視聴	校内実習	
				デモンストレーション	実施
安全を守る技術		分泌物、汚物の取り扱い 創傷処置 消毒薬の特徴		ガウンテクニック チューブ包帯	手指の消毒 （手洗い） スタンダードプリコーション 滅菌操作 （鉗子、鑷子の取り扱い、 滅菌パックの開け方、滅菌ドレープの 広げ方、カストの蓋の開け方など） 滅菌手袋の装着 包帯法 （巻軸、伸縮） ＊抑制
生活援助技術Ⅰ	活動・休息	休息を促す援助(ナイトケア・ 足浴・リラクゼーション） 活動を促す援助 (レクリエーション・散歩など)			
	体位・移動		体位変換		安楽な体位の工夫 基本移動 （水平、上下） 体位変換 仰臥位⇔側臥位 臥位⇔端坐位 端坐位⇔立位 移乗・移送 車椅子 ＊スライディングボード ＊ストレッチャー
	環境		環境整備技術		環境整備 ベッドメーキング ・シーツ交換 ・臥床患者のシーツ交換

科目名		講義	DVD視聴	校内実習	
				デモンストレーション	実施
生活援助技術Ⅱ	食事・排泄	排泄用具の選択	摘便		食事の援助 便器の挿入 尿器の挿入
	衣生活・清潔	寝衣の工夫 全身の清潔 入浴、シャワー浴 耳、目、爪の清潔 ドライシャンプー 結髪 髭剃り 爪切り		洗髪	・前開パジャマの交換 ＊丸首パジャマの交換 全身清拭 部分浴 （足浴） 洗髪（洗髪台　洗髪車　簡易洗髪器） 陰部洗浄
診療の補助技術Ⅰ	吸引・吸入・洗浄	吸入・吸引・洗浄の原理 排痰ケア （体位ドレナージを含む）		ベンチュリーマスク	吸引 （気管内、口腔内） 酸素吸入 （ボンベ、中央配管） 超音波ネブライザー
	浣腸・導尿	高圧浣腸	グリセリン浣腸 導尿		グリセリン浣腸 一時的導尿 膀胱留置カテーテル ＊男性の一時的導尿
診療の補助技術Ⅰ	検査	検体の取り扱い方	採血		尿比重測定 （屈折計） 検尿 （テステープ法） 静脈血採血（注射器・真空採血）
	与薬	外用薬 点眼 麻薬の取り扱いと管理 皮内注射 静脈内注射 経口与薬 （散薬）		坐薬の挿入	経口与薬　外用薬の塗布 皮下注射 （上腕後面） 筋肉内注射 （三角筋・中殿筋） 点滴静脈内注射 （セットの接続、固定、調整） 薬液の準備（バイアル・アンプル）
臨床につなぐ技術Ⅰ	周手術期	T字帯			
	ME機器	人工呼吸器の管理 除細動器 心電図モニター 輸液ポンプの管理 シリンジポンプの管理			輸液ポンプの操作 シリンジポンプの操作 心電図の撮影 人工呼吸器の設定確認
臨床につなぐ技術Ⅱ	安静・食事療法				
	輸液・輸血療法	水分出納の管理 中心静脈栄養の管理 輸血管理			
	救急法				止血法 人工呼吸（バックバルブマスク） 気道確保 胸骨圧迫 AED
看護過程		看護過程の展開方法			
看護過程演習		看護過程の展開（思考と技術）			Ⅰ：脳梗塞 Ⅱ：COPD

【 専門分野 】 地域･在宅看護論

科目	講義	DVD視聴	校内実習	
			デモンストレーション	実施
地域･在宅看護概論				
暮らしを支える看護Ⅰ				
暮らしを支える看護Ⅱ				
在宅療養を支える看護Ⅰ	住宅改修 体圧分散マット 在宅経管栄養法 （HEN ・ PEG） トロミ剤 栄養補助食品 在宅中心静脈栄養法 ポート管理 在宅輸液ポンプ 褥瘡予防	訪問マナー 訪問看護のイメージ 在宅人工呼吸療法 （TPPV ・ NPPV）	福祉用具の実際 簡易体圧測定器での体圧測定	訪問マナー 日常生活援助の工夫 褥瘡の洗浄 トロミ剤の調整 PEGの注入
在宅療養を支える看護Ⅱ	社会資源の活用	ALS患者のコミュニケーション		エコマップ
在宅療養を支える看護Ⅲ				在宅療養者の看護過程 ･独居高齢者

【 専門分野 】 成人看護学

科目	講義	DVD視聴	校内実習	
			デモンストレーション	実施
成人看護学概論				
成人看護学方法Ⅰ				
成人看護学方法Ⅱ（クリティカルケア）	肩枕 ショック体位 モニター管理 心電図の読影 徐細動器の使用と管理 AEDの管理			病期経過を踏まえた看護過程 ・心筋梗塞
成人看護学方法Ⅲ（周術期ケア）	術後ベッドの作成 手術を受ける患者の援助 集中治療を受ける患者の援助 ストーマケア 胸腔・腹腔ドレーン管理		臍処置 含嗽 術前訓練 創傷処置 ドレーン管理	術後の早期離床 病期経過を踏まえた看護過程 ・胃がん
成人看護学方法Ⅳ（セルフケア）	嚥下評価 嚥下訓練 経管栄養の管理		歩行器・杖歩行の使用方法 経管栄養チューブの挿入と固定・管理 自助具の工夫	機能訓練 関節可動域訓練 三角巾の使い方 片麻痺患者の寝衣交換 片麻痺患者の移動
成人看護学方法Ⅴ（セルフマネジメント）	インスリンの自己注射 指導技術	インスリンの自己注射	フットケア	簡易血糖測定 個人指導の展開 病期経過を踏まえた看護過程 ・糖尿病
成人看護学方法Ⅵ（ターミナルケア）	ペインコントロール クリーンルームの整備 がん化学療法中の観察・看護・被爆予防 放射線療法後の皮膚ケア リンパマッサージ			病期経過を踏まえた看護過程 ・肺がん

【 専門分野 】 老年看護学

科目	講義	DVD視聴	校内実習	
			デモンストレーション	実施
老年看護学概論		高齢者の生理機能 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		老化体験
老年看護学方法Ⅰ				
老年看護学方法Ⅱ	・補聴器の取り扱い			・おむつ交換 ・義歯の取り扱い ・口腔ケア
老年看護学方法Ⅲ	・手術を受ける高齢者	高齢者のケアシリーズ せん妄のケア		
老年看護学方法Ⅳ				・老化に伴う機能低下と発達課題をふまえた看護過程 （胸椎・腰椎圧迫骨折）

【 専門分野 】 小児看護学

科目名	講義	DVD視聴	校 内 実 習	
			デモンストレーション	実施
小児看護学概論				
小児看護方法Ⅰ	調乳			哺乳、排気
小児看護方法Ⅱ	採尿パック 腰椎穿刺時の介助 採血時の介助・固定 内服薬の介助・工夫 薬液吸入 プレパレーション		小児の抑制 身体計測	輸液のシーネ固定
小児看護方法Ⅲ	吸引 酸素療法の管理 小児の意識レベル		胸骨圧迫	
小児看護方法Ⅲ （看護過程）		喘息発作で入院した小児の事例展開		成長発達を踏まえた 看護過程 ・気管支喘息

【 専門分野 】 母性看護学

科目	講義	DVD視聴	校内実習	
			デモンストレーション	実施
母性看護学概論		母性の発達 生命の誕生		
母性看護学方法Ⅰ			家族計画	妊婦体験
母性看護学方法Ⅱ （妊娠期）	体位・胎向 児心音の聴取 NST 腹帯			
母性看護学方法Ⅱ （分娩期）	分娩スタイル 分娩監視装置 パルトグラム 胎盤計測	新しい家族誕生の支援1・2		呼吸法 腰部マッサージ
母性看護学方法Ⅲ （産褥期）	産褥体操 乳頭・乳輪マッサージ 子宮底測定 母子手帳の記述 出生届		子宮底測定 乳房マッサージ	
母性看護学方法Ⅲ （新生児期）	排気の仕方 肛門刺激 鼻腔内・口腔内吸引 黄疸測定		臍処置	身体計測 沐浴 衣服の着脱 オムツ交換 新生児の抱き方・寝かせ方
看護過程				ウエルネスの看護過程 ・経膣分娩、産褥2日目の初産婦

【 専門分野 】 精神看護学

科目	講義	DVD視聴	校内実習	
			デモンストレーション	実施
精神看護学概論				
精神看護学方法Ⅰ	プロセスレコード リフレーミング			
精神看護学方法Ⅱ （看護）	治療的環境 心理テスト 精神療法 カウンセリング 緊急時の対応 服薬管理方法 SST			病院見学
精神看護学方法Ⅱ	レクレーション療法 作業療法			レクレーションの企画・運営
精神看護学方法Ⅲ	プロセスレコード			精神疾患患者の看護過程 ・統合失調症

看護師教育の技術項目と卒業時の到達度

■卒業時の到達度レベル

＜演習＞

Ⅰ：モデル人形もしくは学生間で単独で実施できる

Ⅱ：モデル人形もしくは学生間で指導の下で実施できる

＜実習＞

Ⅰ：単独で実施できる

Ⅱ：指導の下で実施できる

Ⅲ：実施が困難な場合は見学する

項目		技術の種類	国の到達度		本校の到達度		学内			関連科目	関連演習
			演習	実習	演習	実習	知識	デモストDVD	実習		
1．環境調整技術	1	快適な療養環境の整備	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	基礎	基礎	基礎	生活援助技術Ⅰ　環境	
	2	臥床患者のリネン交換	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ		基礎	基礎	生活援助技術Ⅰ　環境	
2．食事の援助技術	3	食事介助（嚥下障害のある患者を除く）	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	基礎		基礎	生活援助技術Ⅱ　食事・排泄	
	4	食事指導	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	専門基礎		成人	生活援助技術Ⅱ　食事・排泄 栄養学	成人看護学方法Ⅴ
	5	経管栄養法による流動食の注入	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	成人 在宅	成人		成人看護学方法Ⅳ（セルフケア） 在宅療養を支える看護Ⅱ	成人・老年看護学実習Ⅲ（学内） 地域・在宅看護論実習
	6	経鼻胃チューブの挿入	Ⅰ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	成人	成人		成人看護学方法Ⅳ（セルフケア）	
3．排泄援助技術	7	排泄援助（床上、ポータブルトイレ、オムツ等）	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	基礎	基礎 老年	基礎 老年	生活援助技術Ⅱ　食事・排泄 老年看護方法Ⅱ	
	8	膀胱留置カテーテルの管理	Ⅰ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	基礎	基礎	基礎	診療の補助技術Ⅰ　浣腸・導尿	成人・老年看護学実習Ⅱ 卒前OSCE
	9	導尿または膀胱留置カテーテルの挿入	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	基礎	基礎	基礎	診療の補助技術Ⅰ　浣腸・導尿	卒前OSCE 卒前練習
	10	浣腸	Ⅰ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	基礎	基礎	基礎	診療の補助技術Ⅰ　浣腸・導尿	在宅実習 卒前練習
	11	摘便	Ⅰ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅲ	基礎	基礎		生活援助技術Ⅱ 食事・排泄	地域・在宅看護論実習
	12	ストーマ管理	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	成人	成人		成人看護学方法Ⅲ（周術期ケア）	
4．活動・休息援助技術	13	車椅子での移送	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	基礎	基礎	基礎	生活援助技術Ⅰ　体位・移動	
	14	歩行・移動介助	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	基礎			生活援助技術Ⅰ　体位・移動	
	15	移乗介助	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	基礎	基礎	基礎	生活援助技術Ⅰ　体位・移動	
	16	体位変換・保持	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	基礎	基礎	基礎	生活援助技術Ⅰ　体位・移動	
	17	自動・他動運動の援助	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	成人	成人	成人	成人看護学方法Ⅳ（セルフケア）	
	18	ストレッチャー移送	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	基礎	基礎	基礎	生活援助技術Ⅰ　体位・移動	
5．清潔・衣生活援助技術	19	足浴・手浴	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	基礎	基礎	基礎	生活援助技術Ⅱ　衣生活・清潔	
	20	整容	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	基礎	基礎	基礎	生活援助技術Ⅱ　衣生活・清潔	
	21	点滴・ドレーン等を留置していない患者の寝衣交換	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	基礎	基礎	基礎	生活援助技術Ⅱ　衣生活・清潔	
	22	入浴・シャワー浴の介助	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	基礎			生活援助技術Ⅱ　衣生活・清潔	
	23	陰部の保清	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	基礎	基礎	基礎	生活援助技術Ⅱ　衣生活・清潔	
	24	清拭	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	基礎	基礎	基礎	生活援助技術Ⅱ　衣生活・清潔	
	25	洗髪	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	基礎	基礎	基礎	生活援助技術Ⅱ　衣生活・清潔	
	26	口腔ケア	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	基礎	老年	老年	生活援助技術Ⅱ　衣生活・清潔 老年看護学方法Ⅱ	
5．清潔・衣生活援助技術	27	点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	基礎	基礎		臨床につなぐ技術Ⅱ　輸液・輸血療法	成人・老年看護学実習Ⅱ（学内） 統合演習
	28	新生児の沐浴・清拭	Ⅰ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	母性	母性	母性	母性看護学方法Ⅲ	

項目		技術の種類	国の到達度		本校の到達度		学内			関連科目	関連演習
			演習	実習	演習	実習	知識	デモストDVD	実習		
6. 呼吸・循環を整える技術	29	体温調節の援助	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	専門基礎	専門基礎	専門基礎	フィジカルアセスメント	
	30	酸素吸入療法の実施	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	基礎	基礎	基礎	診療の補助技術Ⅰ　吸引・吸入・洗浄	
	31	ネブライザーを用いた気道内加湿	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	基礎	基礎	基礎	診療の補助技術Ⅰ　吸引・吸入・洗浄	
	32	口腔内・鼻腔内吸引	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	基礎	基礎	基礎	診療の補助技術Ⅰ　吸引・吸入・洗浄	成人・老年看護学実習Ⅱ（学内）
	33	気管内吸引	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	基礎	基礎	基礎	診療の補助技術Ⅰ　吸引・吸入・洗浄	
	34	体位ドレナージ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅲ	基礎			診療の補助技術Ⅰ　吸引・吸入・洗浄	
7. 創傷管理技術	35	褥創予防ケア	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	基礎 在宅	基礎 在宅		生活援助技術Ⅰ　体位・移動 在宅療養を支える看護Ⅱ	
	36	創傷処置（創洗浄、創保護、包帯法）	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	基礎 成人	基礎 成人	基礎	安全を守る技術 成人看護学方法Ⅲ（周術期ケア）	統合演習 卒業前技術練習
	37	ドレーン類の挿入部の処置	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	成人	成人		成人看護学方法Ⅲ（周術期ケア）	統合演習
8. 与薬の技術	38	経口薬（バッカル錠・内服薬・舌下錠）の投与	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	基礎		基礎	診療の補助技術Ⅱ　与薬	
	39	経皮・外用薬の投与	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	基礎		基礎	診療の補助技術Ⅱ　与薬	
	40	坐薬の投与	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	基礎	基礎		診療の補助技術Ⅱ　与薬	
	41	皮下注射	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	基礎	基礎	基礎	診療の補助技術Ⅱ　与薬	卒業前技術練習
	42	筋肉内注射	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	基礎	基礎	基礎	診療の補助技術Ⅱ　与薬	卒業前技術練習
	43	静脈路確保・点滴静脈内注射	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	基礎	基礎	基礎	診療の補助技術Ⅱ　与薬	統合実習 卒業前技術練習
	44	点滴静脈内注射の管理	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	基礎	基礎	基礎	診療の補助技術Ⅱ　与薬	統合実習 卒業前技術練習
	45	薬剤等の管理（毒薬、劇薬、麻薬、血液製剤、抗悪性腫瘍薬を含む）	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	基礎			診療の補助技術Ⅱ　与薬	
	46	輸血の管理	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	基礎			臨床につなぐ技術Ⅱ　輸液・輸血療法	
9. 救命救急処置技術	47	緊急時の応援要請	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	基礎	基礎	基礎	臨床につなぐ技術Ⅱ　救急法	
	48	一次救命処置（BLS）	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	基礎	基礎	基礎	臨床につなぐ技術Ⅱ　救急法	
	49	止血法の実施	Ⅰ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅲ	基礎	基礎	基礎	臨床につなぐ技術Ⅱ　救急法	
10. 症状・生体機能管理技術	50	バイタルサインの測定	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	専門基礎	専門基礎	専門基礎	フィジカルアセスメント	
	51	身体計測	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	専門基礎			フィジカルアセスメント	
	52	フィジカルアセスメント	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	専門基礎	専門基礎	専門基礎	フィジカルアセスメント	
	53	検体（尿、血液等）の取り扱い	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	基礎	基礎	基礎	診療の補助技術Ⅱ　検査	
	54	簡易血糖測定	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	成人	成人	成人	成人看護学方法Ⅱ （セルフマネジメント）	統合演習 卒業前技術練習
	55	静脈血採血	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	基礎	基礎	基礎	診療の補助技術Ⅱ　検査	卒業前技術練習
	56	検査の介助	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	基礎			診療の補助技術Ⅱ　検査	
11. 感染予防技術	57	スタンダード・プリコーション（標準予防策）に基づく手洗い	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	基礎	基礎	基礎	安全を守る技術	
	58	必要な防護用具（手袋、ゴーグル、ガウン等）の選択・着脱	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	基礎	基礎	基礎	安全を守る技術	
	59	使用した器具の感染防止の取扱い	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	基礎			安全を守る技術	
	60	感染性廃棄物の取扱い	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	基礎			安全を守る技術	
	61	無菌操作	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	基礎	基礎	基礎	安全を守る技術	統合演習 卒業前技術練習
	62	針刺し事故の防止・事故後の対応	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	基礎	基礎	基礎	安全を守る技術 診療の補助技術Ⅱ　検査、与薬	

項目		技術の種類	国の到達度		本校の到達度		学内			関連科目	関連演習
			演習	実習	演習	実習	知識	デモストDVD	実習		
12. 安全管理の技術	63	インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	基礎			安全を守る技術	
	64	患者の誤認防止策の実施	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	基礎		基礎	安全を守る技術 診療の補助技術Ⅱ　与薬	
	65	安全な療養環境の整備（転倒・転落・外傷予防）	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	基礎	基礎	基礎	安全を守る技術 生活援助技術Ⅰ　環境	
	66	放射線の被ばく防止策の実施	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	専門基礎			治療学 成人看護学方法Ⅵ（ターミナルケア）	
	67	人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防の実施	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	成人			成人看護学方法Ⅵ（ターミナルケア）	
	68	医療機器（輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電図モニター、酸素ボンベ、人工呼吸器等）の操作・管理	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	基礎	基礎	基礎	臨床につなぐ技術Ⅰ　ME機器	
13. 安楽確保の技術	69	安楽な体位の調整	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	基礎		基礎	生活援助技術Ⅰ　体位・移動	
	70	安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	専門基礎	専門基礎	専門基礎	フィジカルアセスメント	
	71	精神的安寧を保つためのケア	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	基礎分野			人間関係論 成人看護学方法Ⅵ（ターミナルケア）	